

## 史料紹介 普門寺（愛知県豊橋市）所蔵黄檗版『大般若経』について

上川 通夫  
井上 佳美

愛知県豊橋市雲谷町うんこに所在する船形山普門寺は、三遠国境地域の豊富な歴史文化を今日に伝える代表的な真言密教寺院である。開創伝承を八世紀に遡り、考古学上の知見では十世紀の遺物・遺構を残し、工芸・彫刻・文献では十二世紀からの史実を伝える。すでに、古代史を中心とする山林寺院研究、平安時代後期の経塚・梵鐘などをめぐる金石研究、藤末鎌初の仏像彫刻七体などについての美術史研究、縁起・判物などの中世文書に関する中世史研究において、個別に注目されてきた<sup>①</sup>。二〇〇二年には豊橋市美術館の企画展『豊橋の寺宝Ⅱ 普門寺・赤岩寺』が開催され<sup>②</sup>、それらを総合する研究の視野と成果が示された。

普門寺については、船形山の山腹に拡がる旧寺域についての発掘調査が進められ、特に近年の豊橋市教育委員会による本格的調査への期待は大きい。文献については、豊橋市美術館企画展で示されたほか、豊橋市史や愛知県史の編纂事業に伴う調査の成果が示されている<sup>③</sup>。普門寺は、十七世紀後半に、船形山の山腹一帯から山麓の現在地に移転して再興されており、それにもなう所藏品物の大変動があったことも推測される。それにも関わらず、法灯の継承のみならず、平安期以来の各種寺宝が伝えられていることは、注目すべきことであろう。しかもなお、寺院固有

の宗教活動に関係して作成・書写・継承されてきた書面、すなわち聖教類などは、近世の移転以後のものとはいえ、調査未着手の状態では伝えられていない。

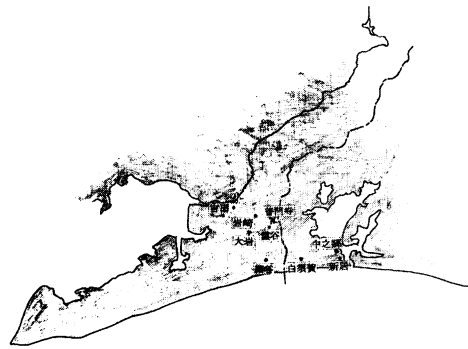
この稿で紹介するのは、普門寺が所蔵する近世十七世紀後半の刊本、黄檗版『大般若経』についてである。破損解体前の普門寺土蔵(1)から、二〇〇八年九月に別置されたものであり、近年までその一部を大般若会で用いていたという。巻次不明断簡を含め、折本五百六十八帖が存在する。刊本だが、各巻にはほぼすべて奥書がある。住職昶深の識語ならびに、別筆による布施寄進者の名前などである。ここからは、山麓での伽藍再興を目指した事業の一環として、近隣地域社会に働きかけて布施を募り購入した事情などが推測される。何よりも記録された膨大な人名を見るにつけ、三遠国境を中心とする、地域社会の住民と寺院との関係の一端をありと感じることができると。

そこで、確認できた奥書のすべてを翻刻し、多少の分析を加えて、広く参考に供したいと思う。普門寺住職の林隆清様には、度重なる調査に便宜をはかっていただいた。ここにお礼申し上げます。(5)。

## 二

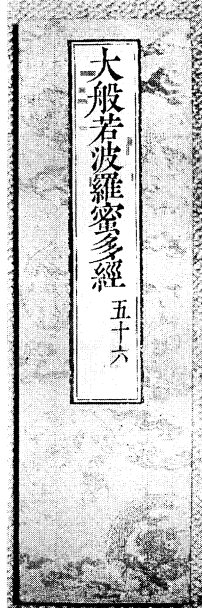
書誌などについて記しておく。(写真1・2・3)

五百六十八巻分が伝えられている。そのうち十巻分は後補だが、その他はすべて元来一具のものである。刊本。折本(一折十行)。一行二十字。黄檗の楮紙。取り囲みの界線がある。訓点・朱書等はない。縦二十七・五cm、横八・二



(図) 三遠国境

大般若波羅蜜多經 五十六



〔写真1〕表紙

大般若波羅蜜多經卷第五十六  
 唐三藏法師玄奘奉詔譯  
 初分辯大乘品第十五之六  
 善現當知地界無所有不可得故乘大乘者亦不可  
 得所以者何畢竟淨故如是大火風空識界無所有  
 不可得故乘大乘者亦不可得所以者何畢竟淨故  
 善現當知苦聖諦無所有不可得故乘大乘者亦不  
 可得所以者何畢竟淨故如是集滅道聖諦無所有  
 不可得故乘大乘者亦不可得所以者何畢竟淨故  
 善現當知無明無所有不可得故乘大乘者亦不可  
 得所以者何畢竟淨故如是行識名色六處觸受愛  
 取有生老死愁歎喜憂惱無所有不可得故乘大乘  
 者亦不可得所以者何畢竟淨故善現當知幻事無  
 所有不可得故乘大乘者亦不可得所以者何畢竟  
 淨故如是夢境像響光影空花陽焰尋香城變化事  
 無所有不可得故乘大乘者亦不可得所以者何畢  
 竟淨故善現當知內空無所有不可得故乘大乘者  
 亦不可得所以者何畢竟淨故如是外空內外空空  
 空大空勝義空有為空無為空畢竟空無際空散空  
 無變異空本性空自相空共相空一切法空不可得

〔写真2〕卷首

有恒無變無易有實性者則此大乘非尊非妙不超  
 一切世間天人阿素洛等以無明非真知是虛妄是  
 顛倒是假設非諦非實無常無恒有變有易都無實  
 性故此大乘是尊是妙超勝一切世間天人阿素洛  
 等善現若行識名色六處觸受愛取有生老死愁歎  
 喜憂惱是眞如非虛妄非顛倒非假設是諦是實有  
 常有恒無變無易有實性者則此大乘非尊非妙不  
 超一切世間天人阿素洛等以行識名色六處觸受

變取有生老死愁歎喜憂惱非眞如是虛妄是顛倒  
 是假設非諦非實無常無恒有變有易都無實性故  
 此大乘是尊是妙超勝一切世間天人阿素洛等  
 大般若波羅蜜多經卷第五十六

經一 天養錄卷五十六 三十二 南六

〔写真3〕卷末

未寄進御施主三初溼養那雲之谷村戶田七左衛門内刀  
 魚享三七年正月吉禱  
 三夏船松山 額主沙門起深  
 合真錄

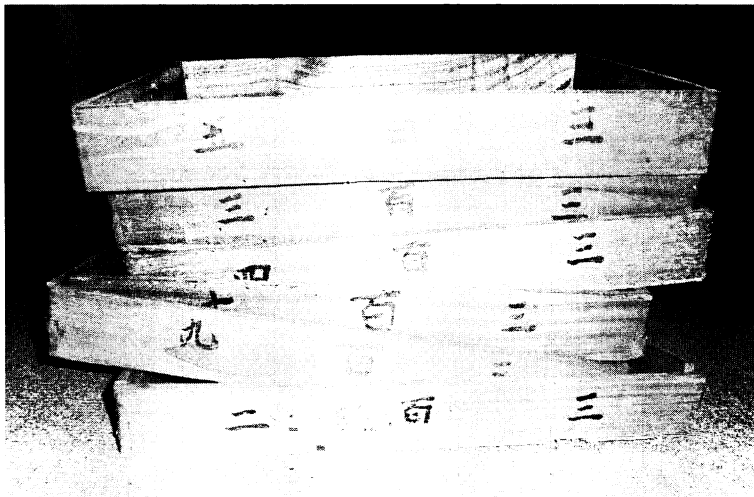
cm。表紙と裏表紙は別紙で、橙色の雲龍模様で装幀されている。外題は別紙に印刷されて添付されている（欠失した帖がある）。多くの巻末には、鉄眼の刊記が付されており、黄檗版の一部であることがわかる。ほとんどの巻末に墨書奥書がある。貞享元年（一六八四）から翌年にかけて、普門寺住持昶深の真読奥書が付されている。

巻第四九一から巻第五〇〇の十帖は、別様である。巻第五〇〇の奥書によって、正徳年中（一七一〇～一七一六）に盗難に会い、享保二年（一七一七）に補填したことがわかる。刊本、折本（一折八行）、一行十八字、楮紙、である。界線・訓点・朱書等はない。縦二十七・六cm、横八・〇cm。表紙と裏表紙は別紙で、橙色の蓮模様で装幀されている。外題は別紙に印刷されて添付されている。内題と尾題の下に千字文の「號」がある。

木製の木箱に納入されていた（現在別置）。一箱に五列二段、十帖を納入する。〔写真4〕

全体に破損が進行している。紙継ぎ目の糊離れは年月の経過がもたらしたもののだが、湿損と虫損が目立つ。前欠または後欠の巻があり、断簡になったものもある。

第一巻や第六〇〇巻といった、節目の巻に発見されないものがある。本来そこには、より詳しい識語が存在した可能性があるが



〔写真4〕木箱

る。

普門寺の近世『大般若経』は黄檗版である。黄檗版は、渡来明僧隱元隆琦が宇治に黄檗山万福寺を開き、日本弟子僧鉄眼道光が、師より得た万暦版大蔵経（一切経）を板木に貼付して彫刻させた、刊本一切経である。完成は延宝六年（一六七八）である。日本における一切経全蔵の開版としては、慶安元年（一六四八）に江戸幕府の援助で大僧正天海が中心になって作成した寛永寺版に次ぐもので、各地を行脚して出版費を調達し、完成した版木で、広く印刷頒布した点では、黄檗版に画期的意義がある<sup>(5)</sup>。日本近世仏教を、經典面で確立させた事業と位置づけられる。今日、各地の寺院に、黄檗版の經典が伝えられている例は多い。しかし現段階では、個人の研究はもとより、自治体史編纂事業にもなう調査などでも、これら近世仏典にまでは十分な手が及んでいないと思われる。

普門寺所蔵分は、黄檗版一切経の冒頭に位置する『大般若経』六百巻である（二部欠失）。一切経の一部分ではあるが、完成後早い段階の黄檗版板木によって刷られたものとしても注目される。書誌からわかる普門寺本の特徴は、次のようなことである。

万暦版を復刻した黄檗版一切経は、袋綴じの冊子（方冊本）であり、一丁二十字詰めである。これまでの卷子本や折本とは違い、一冊に数巻分の經典類が合わせ含まれることが多い。『大般若経』の場合は各冊五巻分が入り、百二十冊で全六百巻を収めることになる<sup>(7)</sup>。ところが、普門寺本は一切経全部ではなく、その一部たる『大般若経』が購入されており、これを袋綴じ冊子ではなく折本の装丁にしている<sup>(8)</sup>。すなわち、本来の半丁分（十行）を中央でさらに半分に谷折りし、この一折りを十行（谷折目の左右各五行）としているのである。つまり、明万暦版を下敷きにしつつその刊記を外し、日本僧鉄眼の勸進事業たることを新たな刊記で示し、折本装という前代以来の装丁を選び、三遠地域での支援者を書写奥書で追記している。この書誌そのものに、近世仏教の一特徴が表れていると見てよいであろう。日本版中国風仏書の地域的導入形態、と言うことができるかもしれない。

普門寺所蔵『大般若経』について、主に歴史的な関心から、問題点として指摘できることを記しておきたい。

中世における『大般若経』の入手は、勸進書写の形式で近隣社会に支援を募る場合が多い。書写行為こそ功德獲得の手段である、という大乘仏典の論理が採用されているらしい<sup>(9)</sup>。ついで近世には刊本の時代が訪れ、寺院の經典をめぐる社会史にも変化があったはずである。願主教田房昶深は、有縁の人々に黄檗版の購入費用を寄進するよう募り、その見返りとして親族菩提や家内安全の実現を約束し、割り振った巻次の末尾に願意を込めた。その際、功德を得るための書写行為に代えて、昶深による該当巻次の読誦が実施され、奥書に「真読畢」等として記された。このような普門寺所蔵の黄檗版『大般若経』の入手事情には、近世寺院として再生する過程を知る手がかりが含まれている。寄進者に即して、もう少し具体的に見てみたい。

まず重要なのは、巻第五三、六六等に「於<sub>二</sub>京都<sub>一</sub>求<sub>レ</sub>之」とあるように、昶深はこの『大般若経』を京都で購入したということである<sup>(10)</sup>。その際、約三十巻分の寄進者を京都で募ったようである。奥書年号は貞享元年卯月が最も早い。寄進者が京都の住人であるのは初めての三十巻余りに集中（巻第二<sub>一</sub>四、六<sub>一</sub>一、一三<sub>一</sub>一四、一六<sub>一</sub>一七、二〇<sub>一</sub>二五、二九<sub>一</sub>三二）しており、しかも全て貞享元年卯月である。施主の住所は「京室町」「京衣之棚二条上町」「京釜之座通二条下町」「京新町通四条上町」「京烏丸下立売<sub>ル</sub>町」等である。更に巻第一二四には「京 御幸町露屋町八幡屋徳兵衛仕立」とある。仕立師以外は全て烏丸通<sub>一</sub>釜座通と、下立売通<sub>一</sub>四条通とに囲まれた地域の住人である。昶深は『大般若経』購入と勸進のため京都に一か月程滞在したと思われるが、仕立師の住所御幸町も施主の住所のごく近くなので、昶深の京都での行動範囲は限られたものであったことがわかる。貞享元年卯月には、信州の教春（巻第一二、二六）、勢州の中村氏（巻第一五）、加州の高桑氏（巻第一九）の寄進も見られる。彼らは、昶深が京都で勸進した際に在京していた人々であろう。

昶深は五月には三河へ戻ってきたものらしく、「当山蓮蔵坊龍賢」が施主となって寄進した卷（卷第三二―三六）が見られるようになる<sup>①</sup>。そのうちの二つ、卷第三二で菩提を弔われている「龍盛」は、船形山第三十二代住持で<sup>②</sup>、寛文三年（一六六三）に死亡している。名前と活動時期から推測するに、龍賢は龍盛の直弟子あるいは孫弟子に当たると考えられる。また、卷第四五でも「施主当山真如坊<sup>一</sup>導盛長音房」とあり、船形山の僧侶が施主となっている。更に卷第二八、卷第四〇では施主名は記されていないが、それぞれの弔う対象である「朝誓」、「日誓」が船形山第三十四代、第三十三代住持を勤めた人物であることから、これらの卷の施主は昶深であろうと思う。卷第四〇の奥書年月が貞享元年五月であることから、その可能性は高い。一方、奥書年月は貞享二年卯月だが、卷第一〇一では「船形山昶深教円房寄附之所也」とあり、昶深自らが施主であるとはつきり記し、「先師阿闍梨朝誓」、「権小僧都実誓」の菩提を弔っている。実誓はおそらく朝誓の弟子であろうが、彼の名は『船形山開基以来代々忌日記』には見られない。肩書きが権小僧都である彼は、住持になることなく早世したのだろう。

貞享元年六、七月になると、船形山山麓の雲谷（雲之谷とも）、遠州、渥美郡の寄進者が登場してくる。このうち雲谷の寄進者は、夏目と戸田の名字を持つ者が多い。戸田姓は渥美半島の有力武士戸田氏と無関係ではなからうが、ここでは地元元貴顕というべき百姓であろう。なお、普門寺現ご住職によれば、雲谷には現在も圧倒的に夏目姓が、次いで戸田姓が多いという。

遠州では、寄進者の多くは浜名湖西岸の中之郷や新居町の人である。普門寺が三遠国境地域に存在するため当然地域的交流があったと考えられるが、中でも中之郷の袴田孫兵衛の存在は注目に値する。彼は、昶深の父親だと思われるからである。『船形山開基以来代々忌日記』の昶深の項には、次のようにある。

卅五世

法印昶深上人 住職隠居後也 生国<sup>之郷</sup>遠州中<sup>之郷</sup>村袴田氏孫兵衛子

正徳元<sup>辛</sup> 卯年六月六日寂ス

船形山第三十五代住持である昶深は、先住職隠居後に住職になった。生まれは遠州中之郷村で、袴田孫兵衛の子だと記されている。一人一巻分のみという寄進者が多い中、袴田孫兵衛は一人で五卷分（巻第九八、一〇〇、一二三、一二五）も寄進していることから、単なる同郷の同姓同名者などではなく、昶深の父親であろうと推測しておきたい。また、遠州中之郷には、神龜年間（七二四～二九）に行基が創建したという真言宗応賀寺がある。その応賀寺杉本坊の住持空円も、巻第六一～六五の五卷分の寄進者となっている。国を超えた寺院間のネットワークを垣間見ることのできる事例である。

普門寺所藏『大般若経』には、全体の半分弱に寄進者の住所と名前が記されている。このうち、吉田城下の町、いわゆる吉田二十四町の寄進者が突出している。これは、昶深が寄進者を募って吉田城下へ盛んに出向いていったことを示している。主として吉田へは、貞享二年四月～五月の二ヶ月間足を運び、寄進者に対して読経をしていたと考えられる。吉田城下では寄進者のほとんどが一般住人（農民、商人等）で、一人一巻分の寄進が大半だが、連名による寄進（巻第一〇三、一三七、一四五他多数）も目立つ。中には六十名以上の連名で寄進（巻第二一八、二五〇）をしたり、町を越えて共に寄進（巻第二二〇、二四九）している集団もある。また、一人で七卷分を寄進（巻第一〇五、一〇六、四〇一、四一〇～四一二、四一四）している永養坊任盛の他、曲尺手町<sup>(13)</sup>に集中して僧侶の寄進者がみられる（巻第四〇二～四〇九）。永養坊任盛の昶深に対する協力は、大般若経購入事業のみに留まらない。普門寺には、貞享二年九月十八日に「永養任盛」が寄進したという華鬘が残されている<sup>(14)</sup>。任盛は初め、昶深が吉田で勸進を始めた貞享二年四月に二卷分を寄進、その後同六月に再び五卷分を、同九月に華鬘を寄進しているのである。更に曲尺手町の僧侶の名前を見てみると、「永雲坊光玄」（巻第四〇二）、「養俊坊真海」（巻第四〇三）、「永真房盛■」（巻第四〇四）等とあり、彼らは任盛の弟子あるいは兄弟弟子ではないかと思われる。昶深の寺院再興構想に賛同した任盛は、身近な僧侶にも寄進を働きかける一方、自らは華鬘も寄進したということであろう。

この他、下総国の宇田川氏も巻第三一一、三一五、三一九、三二〇、三三四の五卷分を寄進している。この五卷全



てに「若欲<sup>二</sup>懺悔<sup>一</sup>者 端座思<sup>三</sup>実相<sup>一</sup> 衆罪如<sup>三</sup>霜露<sup>一</sup> 惠日能消除<sup>文</sup>」と經文を引用していることから、彼には何らかの強い寄進理由があつたと思う。昶深と宇田川氏との接点ははつきりとは分からないが、奥書年月の貞享二年五月は昶深が吉田で頻りに勸進していた時期なので、宇田川氏が吉田宿に宿泊したために昶深と出会つた可能性は高い。

昶深は、『大般若經』を百卷ずつ区切つて寄進者を当てようとしていた節がある。百巻で区切つてみた場合、卷第一六三以後には寄進奥書がなく、三百番台は卷第三二一以後（三三四と三六五を除く）、四百番台は卷第四一七以後、五百番台では卷第五二一以後（五六八を除く）に、寄進者が記されていない。全体の傾向として、後半には寄進者名が殆ど書かれなくなる。施主の獲得に限界があつたということであろうか。昶深は「真説独吟勤<sup>二</sup>修之<sup>一</sup>」（卷第二百）と述べており、きわめて実直に、新品の『大般若經』を読み通しつづつ援助を求めたのであろう。ただ、全巻に援助者がついたのでないよう、文字通りの独吟によつて奮闘していた姿を、寄進者名のない經卷から想像できる。

さて、普門寺には、宮殿（本尊厨子）から取り外されて保管されている、本尊聖觀音立像背後の板が存在する。親の普門寺再興事業の終了を記念して作成された物らしい。以下に翻刻を示す（読点を付した）。（写真5）

奉造立三州船形山梧桐岡院普門寺

本堂一字并玉殿、抑当嶺本尊者、行基薩埵

依不思議奇瑞所剋調、聖觀自在之尊容也、此事

具記於縁起、仍令省略者也、往昔中古繁栄復

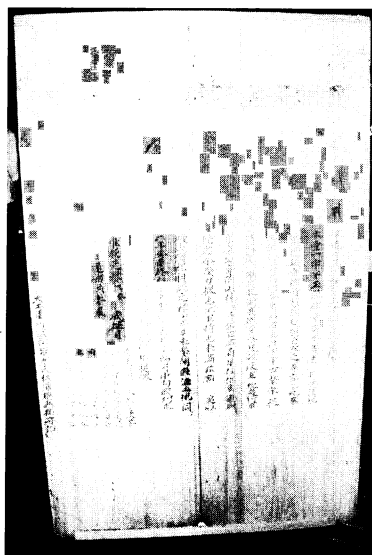
在彼記<sup>矣</sup>、雖然時漸衰微堂塔既破壞、至 征夷將軍

家康公寄附山林并寺領百石、自是住侶専励興

隆志亦尚力微也、不至時也、未滿茲願、爰以

權大僧都昶深、元禄四年辛未鑿開難泆土地、同

六年癸酉、終引山上伽藍建立茲地、暢月中旬成功畢、



〔写真5〕本堂并玉殿造立木札

本願主任持権大僧都法印昶深

遺弟阿闍梨深教房快誉

惟時元禄六癸酉歲復月 同 権律師教春房昶遍

十八日遷仏供養畢 同 大法師快心房昶海

同 大法師慈円房昶秀

末寺住侶蓮藏坊 伝盛

同末寺 真如坊 尊盛

大工遠州浜松藤原氏杉浦徳兵衛守治

寺勢の衰微を克服すべく、興隆意志をもったものの、なお果たせなかつた故に、住持昶深が本願となり、思い切つて山上から現地に下りて寺地を開発し、元禄四年（一六九二）から六年にかけて新伽藍を完成させたという。

これに關係して、「奉再興本堂一字」と記した、同年月日の大形の棟札も残されている<sup>15</sup>。その片面には、「仏法紹隆諸神守護」とともに、「衆人快樂二世安寧」の願意が込められている。もう一方の面には、「願主三州船形山法印昶深上人造立之」と大書されるとともに、金灯笼・三具足・大壇の施主として、『大般若経』奥書にも登場する雲谷村の夏目七兵衛と戸田庄次郎の名も見える<sup>16</sup>。

山下への伽藍移転は、近世寺院としての普門寺の出発を画する、大事業である。『大般若経』奥書から新伽藍完成までおよそ十年間あるが、『大般若経』勸進時期にはすでに伽藍を新しくする構想があつたのかもしれない。この『大般若経』は、新伽藍に新たな經典を備えようというコンセプトの一部として購入された、とみて間違いないであろう。永養坊任盛が華鬘を寄進したのは、新堂舎に飾られることを想定しての行為だと考えられるのである。そして何と云つても、最新スタイルの黄髮版『大般若経』は、寺の新たな出発にはいかにも相応しい。寺院再興に賭けた昶深の決意と努力が込められた『大般若経』は、毎年の大般若会で活用され始めたのである。

## 付記

第一回調査 二〇〇九年三月二十六日

文学部日本文化学科（現日本文化学部歴史文化学部）教員の共同研究「国境<sup>くわんぎ</sup>の歴史文化」（二〇〇九年度学長特別教員研究費）による普門寺調査。あわせて、学科専門科目授業「古代・中世文書演習」（担当上川通夫）の受講学生による調査実習。参加学生、石黒彩美、岩永夏希、大杉英梨子、白井亭奈、田川結琴、保母亜沙美、村岡亜美、米川知香、和田紋子、夏目知里（以上学部生）、平岩加寿子、井上佳美（以上大学院生）、上川通夫。

第二回調査 二〇〇九年六月五日 高橋風露、古田夏美、渡邊

琴美（以上学部生）、井上佳美、上川通夫。〔写真6〕

第三回調査 二〇〇九年六月三十日 井上佳美、上川通夫。

第四回調査 二〇〇九年八月四日 井上佳美、上川通夫。

第五回調査 二〇〇九年九月二十四日 井上佳美、上川通夫。



〔写真6〕調査風景

## 注

- (1) 不十分だが、上川通夫「史料紹介 普門寺（豊橋市）所蔵永暦二年永意起請木札について」（『愛知県史研究』第一四号、二〇一〇年）、井上佳美「『松形山普門寺梧桐院閻闍之縁起由来』についての基礎的考察」（『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集』二〇一〇年）、を参照されたい。
- (2) 同名の図録が刊行されている。美術史研究については、同書に収録されている山崎隆之・山岸公基「普門寺の仏像」や写真のキャプションを参照されたい。
- (3) 『豊橋市史』第五卷（一九七四年）、『愛知県史』資料編の古代2（二〇〇九年）、中世1（二〇〇一年）、同2（二〇〇五年）、同3（二〇〇九年）、織豊1（二〇〇三年）、同2（二〇〇七年）。
- (4) 寛政二年（一七九〇）普門寺境内図には、庫裏の左側に瓦葺蔵（桁行四間、梁三間）として見える。『豊橋の寺宝Ⅱ 普門寺・赤岩寺』（前掲）、参照。
- (5) 調査実現の発端は、愛知県史編纂事業の一環で、古代史部会に所属する上川が、二〇〇八年八月二十八日に、永暦二年永意起請木札の調査に赴いたことにある。その際、ご住職より他の所蔵文献についてもご教示いただき、九月八日にあらためて伺い、『大般若経』の所在を確認した。その後、五回にわたって調査させていただいた。
- (6) 大蔵会編『大蔵経―成立と変遷―』（一九六四年、百華苑）、大槻幹郎、松永知海共編『影印黄檗版大蔵経刊記集』（一九九四年、思文閣出版）。
- (7) 上越教育大学附属図書館編『上越教育大学所蔵黄檗鐵眼版一切経目録』（一九八八年）。
- (8) 『全蔵漸請千字文朱点』簿による『黄檗版大蔵経』流布の調査報告書（『佛教学アジヤ宗教文化情報研究所、二〇〇八年』）に記された出版・流布状況の詳細によると、黄檗版一切経は分割購入の例が多く、『大般若経』についてのみ折本で頒布されている注記が散見される。なお、同史料に記載された黄檗版一切経の購入寺院について、三河国ではのべ四十四か寺あるが、普門寺は見えない。『大般若経』のみを注文したのであろう。
- (9) 『金剛般若経』、『大集経』巻第二十三、『大般若経』巻第三百三十二などに、書写を勧める教説がある。大山仁快編『日本の美術―五十六写経』（一九七九年、至文堂、七八ページ参照）。
- (10) 他に、巻第七一、七三、八〇、八七、九〇、九三、九六、九八、一〇〇にも同様の文言がみられる。

(11) 「三州吉田嶺神社仏閣記」(『豊橋市史』第七卷、一九七八年)によれば、元禄六年(一六九三)当時、船形山普門寺には蓮蔵坊と真如坊の二つの塔頭が存在していたという。

(12) 普門寺蔵『船形山開基以来代々忌日記』。普門寺の代々の住職が列挙されている。

(13) 曲尺手町は、「曲手町」「曲尺町」「金之手町」「金年町」とも記される。

(14) 『豊橋の寺宝Ⅱ 普門寺・赤岩寺展』図録二十四頁。(豊橋市美術博物館、二〇〇二年)

(15) 縦一六二・〇cm、横二九・五cm、厚一・三cm。普門寺収蔵庫保管。

(16) 夏目七兵衛、戸田庄次郎の名は、『大般若経』巻第六七、六九、五〇一、五二〇(以上夏目)、巻第四六、五〇、八三(以上戸田)に確認できる。

以下、現存経巻を一覧にし、あわせてそれぞれの奥書を翻刻する。

欠失の巻次は記していない。

行取りは可能な限り原態を尊重した。

新字体を用いた。

山号「船形山」と「式年」はそのまま表記した。

願主僧昶深の墨書はすべて同筆であり、本人のものと思われる。

その他の記述は異筆であり、「」を付した。

「昶深」の用字には多少の異体字が取り混ぜられているが、すべて統一した。

欠失文字は□、判読不能文字は■、とした。

卷第二

(奥書)

「奉寄進為妙信禪尼菩提

御施主京室町池田屋平野氏伊兵衛殿為母儀」

三州船形山普門寺

皆貞享元<sup>甲</sup>子年卯月吉祥日

願主法師昶深

令真読畢

卷第三

(奥書)

「奉寄進為浄屋九意菩提

御施主京室町池田屋平野氏伊兵衛殿内方

為親父也

三州船形山

□<sup>曾之</sup>貞享元<sup>甲</sup>子年卯月吉祥日

願主法師昶深

令真読畢

卷第四

(奥書)

「奉寄進為貞巖清寿菩提

御檀主京室町池田屋平野氏伊兵衛殿内方為母儀」

三州船形山

皆貞享元<sup>甲</sup>子年卯月吉祥日

願主法師昶深

令真読畢

卷第五

(奥書)

貞享歲次乙丑仲夏上旬日令真読畢三州船形山法印昶深修行之

「施主三州吉田上伝馬町

真弓佐平」

卷第六

(奥書)

「奉寄進為自身逆修法名寿性

御施主京室町池田屋平野氏伊兵衛殿内方」

三州船形山

皆貞享元<sup>甲</sup>子年卯月吉祥日

願主法師昶深

令真読畢

卷第七

(奥書)

「奉寄進為御兩親菩提

載譽浄運信士  
心譽妙有信女

御施主京衣之棚式糸上町池田屋■山氏仁兵衛殿」

三州船形山

皆貞享元<sup>甲</sup>子年卯月吉祥日

願主法師昶深

令真読畢

卷第八

(奥書)

「奉寄進 運譽清心信女  
妙專信女

御施主京衣棚二条上町池田屋■山氏仁兵衛殿」

三州松形山

皆貞享元<sup>甲</sup>子年卯月吉祥日

願主法印昶深  
令真読畢

卷第一一

(奥書)

「奉寄進為六親

御施主京衣之棚二条上ル町井筒屋次左衛門殿」

三州渥美郡松形山普門寺

皆貞享元<sup>甲</sup>子年卯月吉祥日

願主法師昶深  
令真読畢

卷第九

(奥書)

「奉寄進為現寿信士 春内妙喜 妙音信女

御施主京釜之座通二条下町池田屋勝氏庄次郎殿」

三州松形山

皆貞享元<sup>甲</sup>子年卯月吉祥日

願主法印昶深  
令真読畢

卷第一二

(奥書)

令真読畢 願主松形山法印昶深

「奉寄進六親眷屬七世父母為菩提

貞享<sup>甲</sup>元年 施主信州松城<sup>代</sup>

卯月吉祥日 教春」

卷第十

(奥書)

「奉寄進

御施主京新町通四条上町 吉田屋吉兵衛殿」

三州松形山

皆貞享元<sup>甲</sup>子年卯月吉祥日

願主法師昶深  
令真読畢

卷第一三

(奥書)

為清譽淨栄禪士

奉寄進 為大法師空聖上人

為權律師亮朝

為法譽林貞信女

為惠雲童子

御施主京衣之棚二条上ル町池田屋 ■山氏仁兵衛殿

三州渥美郡松形山普門寺

皆貞享元<sup>甲</sup>子年卯月吉祥日

願主法印昶深

令真読畢

卷第一四

(奥書)

〔為常俊知俊清春菩提

御施主京都井狩氏治衛門殿〕

于時貞享元年甲卯月吉祥日 令真讀已

三州渥美郡船形山普門寺 願主法印昶深

卷第一五

(奥書)

〔奉寄進為二親兄弟菩提也

施主勢州村和中村氏五郎兵衛〕

三州渥美郡船形山普門寺

于時貞享元年甲卯月吉祥日

令真読畢

願主法師昶深

卷第一六

(奥書)

〔奉寄進為六親 御施主京都井狩氏子治右衛門殿〕

三州渥美郡船形山普門寺

貞享元年甲子年卯月吉祥日

令真読畢

願主法印昶深

卷第一七

(奥書)

奉寄進 為六親 御施主京都平田氏子 源右衛門殿

三州渥美郡船形山普門寺

貞享元年甲子年卯月吉祥日

令真読畢

願主法印昶深

卷第一八

(奥書) ナシ

卷第一九

(奥書)

〔奉寄進 為六親 御施主加州小松高桑氏子勝兵衛殿〕

三州渥美郡船形山普門寺

貞享元年甲子年卯月吉祥日

令真読畢

願主法印昶深

卷第二〇

(奥書)

〔奉寄進 為 雲松 御施主京都向松氏子勝兵衛殿

三州渥美郡船形山普門寺讀校已〕

貞享元年甲子年卯月吉祥日

願主法印昶深



卷第二一

(奥書)

〔奉寄進為六親 御施主京衣之棚二条上ル町池田屋

■山氏仁兵衛下々衆中

吉川氏勝右衛門

三州渥美郡松形山普門寺

皆貞享元<sup>甲</sup>子年卯月吉祥日

願主法印

卷第二二

(奥書)

〔奉寄進 御施主京烏丸下立売下ル町

野田氏勝兵衛

三州渥美郡松形山普門寺

皆貞享元<sup>甲</sup>子年卯月吉祥日

願主法師昶深

卷第二三

(奥書)

〔奉寄進為法界御施主京烏丸下立売下ル町

野田氏勝兵衛

三州渥美郡松形山普門寺

皆貞享元<sup>甲</sup>子年卯月吉祥日

願主法師昶深

卷第二四 (前欠)

(奥書)

〔奉寄進為六親

御施主京烏丸下立売下ル町

野田氏勝兵衛

三州渥美郡松形山普門寺

皆貞享元<sup>甲</sup>子年卯月吉祥日

願主法師昶深

卷第二五

(奥書)

〔奉寄進為恵雲童子善提 政勝敬白

御施主京烏丸二条下ル町小林氏

皆貞享元<sup>甲</sup>子年四月吉祥日

三州渥美郡松形山普門寺

願主法印昶深

卷第二六 (前欠)

(奥書)

三州松形山

願主法師昶

〔奉寄進 六親眷屬七世父母為善提

貞享元<sup>甲</sup>元年

卯月吉祥日

信州松城

卷第二七

(奥書) ナシ

卷第二八

(奥書)

為阿闍梨那朝養御菩提高野山住心院一代

船形山 願主法師昶深

卷第二九(前欠)

(奥書)

奉寄進為二親 御施主京衣之棚二条上ル町

池田屋 ■山氏奥

三州渥美郡船形山普門寺

皆貞享元<sup>甲</sup> 子年卯月吉祥日

願主法師昶深

卷第三〇(中欠)

(奥書)

奉寄進為六親

御施主京衣之棚二条上ル町 池田屋門良後

三州渥美郡船形山普門寺

皆貞享元<sup>甲</sup> 子年卯月吉祥日

願主法師昶深

卷第三一

(奥書)

奉寄進

御施主京新町通三条上町 鱗形屋 吉兵衛殿

皆貞享元<sup>甲</sup> 子年卯月吉祥日 三州船形山願主法印昶深

令真誥已

卷第三二

(奥書)

「奉寄進為先師龍盛菩提 施主当山蓮藏坊龍賢」

皆貞享元<sup>甲</sup> 子年五月吉祥日 船形山願主法印昶深

令真誥畢

卷第三三

(奥書)

「為蓮藏坊龍賢自身逆修」

三州船形山普門寺

貞享元<sup>甲</sup> 子年五月吉辰時令真誥已 願主法印昶深

卷第三四

(奥書)

「為春榮道林菩提施主当山蓮藏坊龍賢」

三州渥美郡船形山普門禪寺

皆貞享元<sup>甲</sup> 子年五月吉祥日 梧桐岡院住持

令真誥已 願主法印昶深

卷第三五

(奥書)

〔奉寄進〕

為実相院妙泉大菩提 施主松形山龍賢

皆貞享元<sup>甲</sup>子年五月吉祥日 三州渥美郡松形山普門寺

令真誥畢 願主法印昶深

卷第三六

〔奥書〕

〔為六親眷屬七世父母等大菩提 施主当山蓮藏坊龍賢〕

三州松形山普門寺住持

貞享元<sup>甲</sup>子年五月吉日

令真誥畢

願主法印昶深

卷第三七

〔奥書〕

〔為雪窓道休頼証大菩提〕

三州渥美郡松形山普門寺

皆貞享元<sup>甲</sup>子 稔仲夏吉辰令真誥已 願主法印昶深

卷第三八

〔奥書〕

〔為覺月妙為大姉大菩提〕

三州渥美郡松形山普門寺

皆貞享元<sup>甲</sup>子年仲夏吉祥日 願主法印昶深

令真誥已

卷第三九

〔奥書〕

〔奉為三宝四恩并六親眷屬七世父母等各成菩提〕

皆貞享元<sup>甲</sup>子 載仲夏吉祥日

令真誥畢 三州松形山普門寺願主法印昶深

卷第四〇

〔奥書〕

奉為当院先師權大僧都法師日眷成等正覺

皆貞享元<sup>甲</sup>子 曆仲夏吉祥日 願主法師昶深教園房

令真誥已 東三河国渥美郡雲谷村松形山普門寺

卷第四一

〔奥書〕

〔奉寄進 御施主三州渥美郡細谷村田久右兵衛門殿〕

貞享元<sup>甲</sup>子 年六月吉祥日 願主法師昶深

令真誥畢

卷第四二

〔奥書〕

奉寄進御施<sup>主殿</sup>三州渥美郡上細谷村村田太兵衛殿

貞享元<sup>甲</sup>子 年六月吉祥日 願主沙門昶深

令真誥已

卷第四三

(奥書)

「奉寄進遊心信士善寿信女菩提施主遠州中之郷渡辺五兵衛」

貞享元<sup>甲</sup>子 年林鐘吉祥日 三州船形山願主沙門昶深

令真読畢

卷第四七

(奥書)

「奉寄進御施主三州渥美郡雲之谷村戸田庄次郎為自身」

于時貞享元<sup>甲</sup>子 五月吉祥日 三州船形山願主沙門昶深

令真読畢

卷第四四

「奉寄進

施主遠州中之郷村於伊佐女」

貞享元<sup>甲</sup>子 年林鐘吉祥日

令真読已 三州船形山普門寺願主法印昶深

卷第四八

(奥書)

「奉寄進御施主三州渥美郡雲之谷村戸田庄次郎為自身」

于時貞享元<sup>甲</sup>子 年五月吉祥日 參州船形山沙門昶深求之

令真読畢

卷第四五

(奥書)

「奉寄進為両親菩提自身二世安樂

施主当山真如坊一導盛長音房」

貞享元<sup>甲</sup>子 年文月吉祥日 令真読畢

三州船形山普門寺願主法印昶深

卷第四九

(奥書)

「奉寄進御施主三州渥美郡雲之谷村戸田庄次郎為内方」

于時貞享元<sup>甲</sup>子 年吉祥日 三州船形山願主法印昶深

令真読畢

卷第四六

(奥書)

「奉寄進 御施主三州渥美郡雲之谷村戸田庄次郎為自身」

貞享元<sup>甲</sup>子 年五月吉祥日 東三河渥美郡船形山梧桐岡院沙門昶深求之

令真読校合畢

卷第五〇

(奥書)

「奉寄進御施主三州渥美郡雲之谷村戸田庄次郎為内方」

于時貞享元<sup>甲</sup>子 年五月吉祥日 三州船形山願主勤息昶深

令真読畢

卷第五一

(奥書)

「奉寄進為自身御施主吉田城中

片岡茂左衛門」

貞享二乙 丑年正月吉祥日 令真読巳 舩形山願主沙門昶深

卷第五二

(奥書)

「奉寄進施主片岡氏御内方為自身也」

貞享二乙 丑年正月吉辰 令真読畢 三州舩形山住持昶深求之

卷第五三

(奥書)

「奉寄進御施主正信妙清信女於ニキ女

於久女」

令真読

皆貞享元 甲子年於京都求之 三州舩形山法師昶深願主也

卷第五四

(奥書)

「奉寄進為兩親并六親眷屬菩提

施主戸田権三郎」

貞享二年 令真読畢 三州舩形山沙門昶深索之

卷第五五

(奥書)

「奉寄進 三州渥美郡雲之谷村多右衛門フジ女長八郎」

皆貞享二乙 丑年正月吉祥日 三州普門禪寺住持昶深求

令真読

卷第五六

(奥書)

「奉寄進 御施主三州渥美郡雲之谷村戸田七左右衛門内方」

三州舩形山

貞享二乙 丑年正月吉祥日

願主沙門昶深

令真読畢

卷第五七

(奥書) ナシ

卷第五八

(奥書)

「奉寄進三州渥美郡雲之谷村戸田次郎左右衛門内方」

貞享二乙 丑年五月吉祥日 三州舩形山願主昶深教門房求

令真読

卷第五九

(奥書)

「奉寄進三州渥美郡飽海村久大夫七郎左右衛門

与右衛門吉兵衛」

于時貞享元甲子年六月中旬日 独吟畢 動息昶深修行之

卷第六〇

(奥書)

七郎右衛門 宅左右衛門 加兵衛 伊右衛門

新兵衛 孫右衛門 三吉 清右衛門

三州鮑海村 次郎兵衛 兵九郎 彦右衛門 權右衛門

奉寄進 權四郎 將監 久五郎 八兵衛

牛之助 与次右衛門 小平次

与八郎 庄九郎 作右衛門

貞享元甲子年林鐘十三日巳上六拾參真独誦文字校合畢

法印昶深独吟勤之

卷第六一

(奥書)

「奉寄進応賀寺杉本坊空円」

貞享乙丑年正月吉祥日 三州松形山 願主沙門昶深

令校誦畢

卷第六二

(奥書)

「奉寄進遠州応賀寺杉本坊空円」

貞享乙丑年正月吉祥日 令真説已 沙門昶深願求

卷第六三

(奥書)

「奉寄進応賀寺内杉本坊空円」

貞享乙丑年正月吉祥日令真説已 松形山昶深願求之

卷第六四

(奥書)

「奉寄進遠州杉本坊空円」

貞享乙丑年正月吉祥日 令真説畢

沙門昶深願求

卷第六五

(奥書)

「奉寄進応賀寺内杉本坊住持空円房」

貞享乙丑年正月吉祥日 三州松形山住持法印昶深求之

令真説畢

卷第六六

(奥書)

「奉寄進 三州渥美郡雲之谷村夏日勘次郎」

皆貞享元甲子年於京都求之 願主法印 昶深

令真説畢

卷第六七

(奥書)

貞享元<sup>甲</sup>子年 令真読畢 願主沙門昶深

〔奉寄進三州渥美郡雲之谷村夏日七兵衛〕

クス女 下男

〔淨金為菩提〕

于時貞享元<sup>甲</sup>子年於京都求之 三州松形山沙門昶深教円房願成就

令真読畢

卷第六八

(奥書)

〔奉寄進三州渥美郡雲之谷村戸田重左右衛門〕

貞享<sup>(甲)</sup>子年 令真読畢 沙門昶深願求

卷第七二

(奥書)

〔奉寄進遠州中之郷渡辺五兵衛内 於十ベ女 於キサ女 於ツル女 於ニス女 於コ女〕

貞享二<sup>乙</sup>丑年正月吉祥日令真読已 松形山願主沙門昶深

卷第六九

(奥書)

貞享元<sup>甲</sup>子年 令真読畢 法印昶深求之

〔奉寄進三州渥美郡雲之谷村夏日七兵衛〕

卷第七三

(奥書)

〔奉寄進 三州渥美郡雲之谷村夏日七郎左右衛門〕

皆貞享元<sup>甲</sup>子年於京都求之 松形山願主沙門昶深

令真読畢

卷第七〇

(奥書)

〔奉寄進 三州渥美郡雲之谷村戸田重左右衛門〕

貞享元<sup>甲</sup>子年 令真読畢

沙門昶深求之

卷第七四

(奥書)

〔奉寄進三州渥美郡雲之谷村夏日吉兵衛〕

貞享年中 令真読畢

松形山願主沙門昶深求之

卷第七一

(奥書)

〔奉寄進遠州中之郷村袴田市郎左衛門并内方於

卷第七五

(奥書)

「奉寄進 三州渥美郡雲之谷村夏目吉兵衛

春巖淨水 月峯道秋各為菩提  
元休広意 寿■妙意

令真読畢 沙門昶深願求之畢

卷第七六

(奥書)

貞享年中 令真読畢

「奉寄進遠州梅田村石田次郎左衛門」 沙門昶深求之

卷第七七

(奥書)

「奉寄進三州雲之谷村於廿女」

貞享二乙 丑年正月吉祥日 松形山普門寺

令真読畢 願主沙門昶深

卷第七八

(奥書)

「奉寄進為親法善例信男菩提

御施主遠州新居町朝倉門三郎為親父」

貞享二乙 丑年正月吉祥日令校読已 沙門昶深求之

卷第七九

(奥書)

「奉寄進為善翁淨安上座菩提

御施主遠州新居町白井氏長左衛門為親父」

貞享二乙 丑年正月吉祥日令真読畢

願主沙門昶深

卷第八〇

「奉寄進為尊慶妙喜大姉為菩提

御施主遠州新居町白井氏長左衛門為母儀」

皆貞享元甲子年於京都求素之独真読畢

松形山住持法印昶深

卷第八一

(奥書)

「奉寄進三州渥美郡雲之谷常門」

貞享元甲子令真読畢

松形山願主沙門昶深

卷第八二

(奥書)

「奉寄進 三州渥美郡雲之谷村常門」

貞享元甲子 真読畢 願主沙門昶深求之



卷第八三

(奥書)

〔奉寄進 三州渥美郡雲之谷村常円〕

施主戸田庄次郎為親父〕

貞享元<sup>甲</sup>子<sup>年</sup> 令真読 舩形山願主法師昶深求之

卷第八四

(奥書)

〔奉寄進 三州渥美郡雲之谷村妙寿〕

貞享元<sup>甲</sup>子<sup>年</sup> 天真読畢 三州舩形山願主沙門昶深求

卷第八五

(奥書) ナシ

卷第八六

(奥書)

〔奉寄進為月溪菩提

御施主遠州白須賀町原田三右衛門〕

貞享元<sup>甲</sup>子<sup>年</sup> 令真読畢 舩形山願主昶深求之

卷第八七

(奥書)

〔奉寄進 御施主遠州白須賀町原田三右衛門為母儀

為二世安樂也

貞享元<sup>甲</sup>子<sup>年</sup>於洛中求之三州舩形山普門寺願主沙門昶深

独吟校合畢

卷第八八

(奥書)

〔奉寄進為月溪嶺參上座菩提

御施主遠州白須賀町原田三右衛門〕

貞享元<sup>甲</sup>子<sup>年</sup>令真読畢 三州舩形山法印昶深求之

卷第八九

(奥書)

〔奉寄進為月溪嶺參上座菩提

御施主遠州白須賀町原田三右衛門〕

貞享元<sup>甲</sup>子<sup>年</sup>令真読 舩形山沙門昶深求

卷第九〇

(奥書)

〔奉寄進御施主遠州白須賀町原田三右衛門為母儀二世安樂也

奉寄進

皆貞享元<sup>甲</sup>子<sup>年</sup>於京都求之三州舩形山願主沙門昶深

真読畢

卷第九一

(奥書)

「奉寄進為美相院妙泉菩提」

御施主権兵衛為母儀」

貞享二乙 丑年正月吉祥日

真読畢

三州船形山願主沙門昶深寛

卷第九二

(奥書)

「奉寄進為春栄道林菩提」

施主権兵衛為親父」

皆貞享元甲 子年

真読畢

三州船形山法印昶深

卷第九三

(奥書)

「奉寄進為二親菩提 雲谷村孫兵衛」

令真読畢

皆貞享元甲 子年於京都求之三州船形山法印昶深願望令成就之

卷第九四

(奥書)

「奉寄進 大岩村 中村長次衛門

為二親大菩提」

貞享元甲 子年七月吉祥日令真読畢

三州船形山願主沙門昶深

卷第九五

(奥書)

「奉寄進為六親大菩提 遠州太田村名田惣左衛門」

貞享元甲 子年七月吉祥日令真読畢

三州船形山願主昶深

卷第九六

(奥書)

「奉寄進為二世安楽 施主雲谷村戸田七郎右門内方於松女

為青岩淨意菩提」

令真読畢

貞享元甲 子年於京都求之三州船形山沙門昶深願求

卷第九七

(奥書)

「奉寄進為六親菩提現世安穩後生善処祈所

施主雲谷村次郎右衛門 令寄附此卷者也」

貞享元甲 子年七月下旬令真読畢

三州船形山普門寺願主法印昶深求

卷第九八

(奥書)

〔奉寄進為覺心道清大菩提之(77)〕

施主遠州中之鄉村袴田孫兵衛

令真読畢

貞享元甲子年於京都求之三州船形山法師昶深願覺之

卷第九九

(奥書)

〔奉寄進御經一卷施主雲之谷村戸田氏惣右衛門正次夫婦

為二世安樂寄附之

貞享元甲子年七月吉祥日真読畢

三州船形山願主沙門昶深求之

卷第一〇〇

(奥書)

〔奉寄進為真譽妙清大菩提

施主遠州中之鄉村袴田孫兵衛

皆貞享元甲子年於京都求之一百卷奉真読所也

三州船形山願主法印昶深覺索之

卷第一〇一

(奥書)

〔奉寄進先師阿闍梨朝譽并權少僧都実譽各大菩提

貞享二乙丑年卯月初一日真読畢船形山法印昶深教門房寄附之所也

寄附之所也

卷第一〇二

(奥書)

〔奉寄進為二世安樂也施主三州吉田曲尺手町

為法樹院真覺妙祐大菩提 藤井左次兵衛

貞享二乙丑稔卯月上旬令真読之畢 船形山法印昶深

卷第一〇三

(奥書)

〔奉寄進 三州吉田金之手町

友兵衛 三四郎 源五兵衛 新十郎 九郎兵衛 吉右衛門

作兵衛 市大夫 孫兵衛 六之丞 八左衛門 仁兵衛

兵三郎 喜兵衛 忠兵衛 勘太郎 善八郎

貞享二乙丑年卯月上旬令真読畢 船形山法印昶深

卷第一〇四

(奥書)

〔奉寄進為円譽休心清信士為菩提

施主三州吉田金之手町 藤井左次兵衛

貞享二乙丑年卯月上旬読誦畢三州船形山法印昶深校之

卷第一〇五

(奥書)

「奉寄進為二世安穩也施主三州吉田曲尺手町

永養坊任盛

為有縁無縁法界

貞享二乙 丑年卯月上旬令真読畢舩形山法印昶深

卷第一〇六

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也施主三州吉田曲尺手町

永養坊任盛

為有縁無縁法界

貞享二乙 丑年卯月上旬令真読畢舩形山法印昶深誦之

卷第一〇七

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也

三州吉田曲尺町

三浦善兵衛

釈■大菩提也

貞享二乙 丑年初夏月上旬令真読畢

舩形山法印昶深

卷第一〇八

(奥書)

「奉寄進三州吉田金之手町源兵衛」

皆貞享二乙 丑年初夏月上旬令読校畢

舩形山法印昶深

卷第一〇九

(奥書)

「奉寄進為二世安樂之 三州吉田曲尺町

施主教徳房」

貞享二乙 丑年初夏月上旬令拝誦畢三州舩形山法印昶深勤之

卷第一一〇

(奥書)

「奉寄進為二世安穩也施主三州吉田田町次兵衛

為悟心求無大菩提也

貞享二乙 丑天卯月上旬令真読畢三州舩形山法印昶深勤之

尹

卷第一一一

(奥書)

貞享式乙 丑稔卯月上旬令真読誦畢 梧桐岡院法印昶深

「奉寄進為二世安樂也

三州吉田曲尺手町

為釈龜屋禪定門菩提  
カメヤ 弥兵衛  
為釈妙秋禪定尼菩提

卷第一一二（後欠）

卷第一一三

（奥書）

「奉寄進為一世安樂也

三州吉田船町中」

于時貞享二乙 丑 天初夏上旬令誦誦畢 普門寺法印昶深

卷第一一四

（奥書）

「為二世安樂也三州吉田曲尺手町

「岳英■宅信士大菩提也

施主藤井佐■衛門」

貞享二乙 丑 年卯月上旬令真誦畢 法印昶深勸之

卷第一一五

（奥書）

「奉寄進三州吉田金之手町藤井左次兵衛

為釈尼妙覆院大菩提

貞享二乙 丑 天卯月上旬令真誦畢 法印昶深誦是

卷第一一六

（奥書）

「施主三州吉田札木町」

皆貞享二乙 丑 載卯月上旬令真誦畢 三州船形山法印昶深

林五兵衛

明譽淨光 惠德妙海

奉寄進為方運攸西堂岳淨天貞繁大菩提也

生夏貞雲 月山頓榮

卷第一一七

（奥書）

「奉寄進二世安樂也 施主三州吉田札木町

与隨 理宿貞花 妙信 大中臣方旧居士

生譽西往 宗閑 貞寿信女 淨譽單清

泰譽淨安 天山淨清信女只念淨本

皆貞享二乙 丑 年卯月十日令真誦畢三州船形山法印昶深勸之

「施主札木町

沢野甚左衛門」

卷第一一八

（奥書）

貞享二乙 丑 天卯月上旬日令真誦畢 船形山法印昶深独吟勸之

「奉寄進為法譽淨林 花譽妙真 覚譽妙正

勢譽威久 念譽淨西 智雲清円

養譽清安 法界衆生 花秀清心

了玄了達 明譽周光 引相妙円

春融童子 随加堂女 弥次郎

於女郎 西譽常テツ 当失妙義

賢常院 常譽円西 施主三州吉田札木町

分部孫助

卷第一一九

(奥書)

「奉寄進為大法師覺勝

施主三州吉田金之手町

藤井左次兵衛

三州船形山

貞享二乙 丑年初夏吉辰令誦読畢 法印昶深欽誦

卷第一二〇

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也 三州高札本町

光譽善淨 宇野市夫

涼室妙庵

皆貞享二乙 丑年卯月中旬令真読畢

船形山法印昶深誦念之

卷第一二一

(奥書)

「奉寄進

奉加集

貞享二乙 丑年卯月上旬令真読畢 三州船形山普門寺法印昶深

卷第一二二

(奥書)

「奉寄進奉加集分

貞享二乙 丑年卯月中旬令誦読畢 三州船形山法印昶深読之

卷第一二三

(奥書)

「奉寄進為六親眷屬大菩提也

施主遠州中之鄉村袴田孫兵衛

貞享二乙 丑年初夏月中旬令真読畢 三州船形山法印昶深勤仕之

卷第一二四

(奥書)

「奉寄進為逆修大菩提也 施主遠州中之鄉村袴田孫兵衛

于時貞享二乙 丑年初夏月中旬令真読畢 參州船形山法印昶深勤之

(表紙裏接着部分)

「京 御幸町鶴屋町八幡屋徳兵衛仕立」

卷第一二五

(奥書)

「奉寄進為家内息災」二世安樂也

施主遠州中之鄉村袴田孫兵衛」

貞享二乙 丑年初夏中旬日令真読畢 舩形山法印昶深誦之

卷第一二九

(奥書)

「奉寄進為養母

施主雲之谷村權兵衛」

貞享二乙 丑年卯月中旬令真読畢 三州舩形山法印昶深

卷第一二六

(奥書)

「 吉田御家中

奉寄進

于時貞享二乙 丑年初夏吉辰令真読畢 三州舩形山法印昶深

寺尾庄兵衛」

卷第一三〇

(奥書)

「奉寄進為喜翁勝深大菩提之

施主雲之谷村權兵衛」

于時貞享二乙 丑年卯月中旬令真読畢 舩形山法印昶深

卷第一二七

(奥書)

「奉寄進

新辰 鷲洒院」

貞享二乙 丑天初夏中旬令読誦畢 三州舩形山法印昶深齊誦之

卷第一三一

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也 雲之谷村權兵衛」

貞享二乙 丑天初夏中旬令真読畢 舩形山法印昶深

卷第一二八

(奥書)

「奉寄進為養父

施主雲之谷村權兵衛」

貞享二乙 丑年初夏吉辰 三州舩形山法印昶深誦之

卷第一三二

(奥書)

「奉寄進為二世安樂

施主遠州新居城町岸七右衛門御袋」

貞享二乙 丑年初夏中旬令真読畢 舩形山法印昶深

卷第一三三

(奥書)

「奉寄進為現当二世也」

施主遠州新居城町

岸十太夫母」

貞享二乙 丑 年初夏中旬令真読畢 船形山法印昶深勤之

卷第一三四

(奥書)

「奉寄進六親為菩提」

施主遠州新居城町

岸十太夫母」

皆貞享二乙 丑 年初夏吉辰令読校文字改畢 船形山法印昶深勤仕之

卷第一三五

(奥書)

「奉寄進為二世安樂」

施主遠州新居城町岸七右衛門母儀

壽慶景雲信女為菩提」

貞享二乙 丑 年初夏中旬 船形山法印昶深読校之

卷第一三六

(奥書)

三州吉田呉服町

奉寄進為二世安樂也 木村利左衛門」

貞享二乙 丑 年初夏中旬令真読畢 船形山法印昶深勤之

卷第一三七

(奥書)

三州吉田呉服町林平太夫

「奉寄進為二世安樂之 大竹吉十助

同平兵衛」

貞享二乙 丑 年初夏日令真読畢 法印昶深勤之

卷第一三八(後欠)

卷第一三九

(奥書)

「奉寄進為嘉慶景雲信女大菩提」

施主遠州新居城町岸七右衛門母儀為自身」

貞享二乙 丑 年初夏中旬令真読畢 三州船形山法印昶深勤仕之

卷第一四〇

(奥書)

「奉寄進遠州新居新福寺閑居為二世安樂」

貞享二乙 丑 年卯月中旬令真読畢 船形山法印昶深



卷第一四一

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也 吳服町」

小野久太郎

貞享二乙 丑 年初夏中旬令真誦畢 三州松形山法印昶深誦之

卷第一四二

(奥書)

「 三州吉田吳服町

奉寄進為二世安樂

林弥治衛門」

于時貞享二乙 丑 天初夏日令校誦畢 奉為三宝四恩乃至自他同利益

三州松形山勤息昶深誦之

卷第一四三

(奥書)

「奉寄進為二世安樂 施主吉田吳服町神谷次郎」

貞享乙 丑 卯月中旬令拜護畢 法印昶深勒之

卷第一四四

(奥書)

「奉寄進為二世安樂施主三州吉田吳服町神戸権平」

貞享二乙 丑 初夏吉辰令真誦畢 三州松形山法印昶深勒行之

卷第一四五

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也 吳服町中

佐次右衛門 喜兵 庄助

十三郎 真右衛門 吉左衛門

伊兵衛 平吉 権八

長左衛門 六兵衛 祐庵

庄兵衛 岡七 彦九郎

人兵衛 清衛門 お七サ」

貞享二乙 丑 初夏令真誦畢

三州普門寺住持

為二世恋地奉校誦者也 法印昶深

卷第一四六

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也 吳服町高須八郎」

貞享二乙 丑 年初夏下旬奉真誦文字校合畢 三州松形山法印昶深

卷第一四七

(奥書)

「奉寄進 施主三州吉田吳服町惣兵衛

高雲依天禪定尼

為覺岑休微禪定門 各菩提

金室常秀信女

貞享二乙 丑 初夏吉辰令真誦畢 三州松形山法印昶深勒之

卷第一四八

(奥書)

「奉寄進為二世安穩也 三州吉田具服町中」

貞享二乙(年題) 丑(年題)初夏中旬令真読畢 三州船形山法印昶深勤之

卷第一四九

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也

具服町高須七助

田中儀右衛門

大津屋利兵衛

林弥七郎

伊藤孫兵衛」

貞享二乙(年題) 丑(年題)初夏日令真読畢 三州船形山法印昶深勤之

卷第一五〇

(奥書)

奉寄進 施主三州吉田具服町小林庄左衛門

為秋露童女菩提

貞享二乙(年題) 丑(年題)孟夏吉辰令真読畢 三州船形山法印昶深勤仕之

卷第一五一

(奥書)

「奉寄進為二世安樂 雲谷村 休西」

貞享二乙(年題) 丑(年題)初夏日令真読畢 三州船形山法印昶深誦之

卷第一五二

(奥書)

「奉寄進為二世安樂 雲谷村八郎右衛門」

貞享二乙(年題) 丑(年題)初夏下旬令真読畢 三州船形山法印昶深勤行之

卷第一五三

(奥書)

「奉寄進為二世安穩遠州中之鄉村

渡辺源兵衛同勘三郎 下女

妙祐為菩提也」

皆貞享二乙(年題) 丑(年題)初夏下旬令真読畢 船形山法印昶深勤

卷第一五四

(奥書)

「奉寄進 為荷屋清円菩提

施主遠州新居城町 岸甚之助」

貞享二乙(年題) 丑(年題)初夏下旬令真読畢 三州船形山法印昶深勤

卷第一五五

(奥書)

「奉寄進 為荷屋清円菩提

施主遠州新居城町岸甚之助」

貞享<sup>(一題)</sup>乙<sup>(年號)</sup>丑 初夏令校読畢 船形山法印昶深

卷第一五六

(奥書)

「奉寄進為荷屋清田菩提」

施主新居城町岸甚之助」

貞享<sup>(一題)</sup>乙<sup>(年號)</sup>丑 初夏日令校読畢 法印昶深勤行之

卷第一五七

(奥書)

「奉寄進為二世安穩」

新居城町岸甚之助」

貞享<sup>(一題)</sup>乙<sup>(年號)</sup>丑 初夏下旬令真読畢 三州船形山法印昶深誦之

卷第一五八

(奥書)

「奉寄進為安穩息災為菩提 新居町仮名岸九郎次」

貞享<sup>(一題)</sup>乙<sup>(年號)</sup>丑 初夏日令読誦先師当祭日畢 法印昶深奉■廻向之

卷第一五九

(奥書)

「奉寄進為六親眷屬菩提」

施主遠州新■村庄右衛門一門中」

貞享<sup>(一題)</sup>乙<sup>(年號)</sup>丑 天初夏下旬令真読畢

三州船形山法印昶深

卷第一六〇

(奥書)

「奉寄進常州一門六親眷屬為大菩提」

檀主袴田太兵衛同善兵衛」

貞享<sup>(一題)</sup>乙<sup>(年號)</sup>丑 年卯月下旬令校読畢 三州船形山法師昶深誦之

卷第一六一

(奥書) ナシ

卷第一六二

(奥書)

「奉寄進 為安法妙心菩提 施主遠州中之郷」

袴田左次兵衛

貞享<sup>(一題)</sup>乙<sup>(年號)</sup>丑 初夏下旬奉校読者也 三河渥美郡船形山 仁兵衛」

法印昶深勤

卷第一六三

(奥書)

貞享<sup>(一題)</sup>乙<sup>(年號)</sup>丑 夏卯月令真読畢 三州船形山普門寺法印昶深誦之

施主遠州新■村庄右衛門一門中」

貞享<sup>(一題)</sup>乙<sup>(年號)</sup>丑 天初夏下旬令真読畢

卷第一六四

(奥書)

于時貞享二乙<sup>(年貳)</sup> 丑 初夏下旬令誦誦畢 三州松形山法印昶深誦之

卷第一六五

(奥書)

皆貞享二乙<sup>(年貳)</sup> 丑 初夏下旬令誦誦 松形山<sup>(法)</sup>師昶深

卷第一六六

(奥書)

貞享二乙<sup>(年貳)</sup> 丑 初夏日奉真校誦畢 三州梧桐岡院法師昶深

卷第一六七

(奥書)

貞享二乙<sup>(年貳)</sup> 丑 天初夏日令真誦畢 三州松形山法印昶深勤行之

卷第一六八

(奥書)

貞享二乙<sup>(年貳)</sup> 丑 天初夏令真誦畢 三州松形山法印昶深

卷第一六九

(奥書)

皆貞享二乙<sup>(年貳)</sup> 丑 卯月下旬令校誦畢 三州松形山法印昶深勤之

卷第一七〇

(奥書)

貞享二乙<sup>(年貳)</sup> 丑 年初夏日令真誦畢 三州松形山法印昶深

卷第一七一

(奥書)

皆貞享二乙<sup>(年貳)</sup> 丑 年卯月日令真誦畢 三州松形山法印昶深勤行之

卷第一七二

(奥書)

貞享二乙<sup>(年貳)</sup> 丑 年初夏下旬令校誦畢 三州松形山法印昶深修行之

卷第一七三

(奥書)

貞享二乙<sup>(年貳)</sup> 丑 初夏下旬令真誦畢 三州松形山法印昶深勤行之

卷第一七四

(奥書)

貞享二乙<sup>(年貳)</sup> 丑 年初夏下旬令真誦畢 三州松形山法印昶深勤

卷第一七五

(奥書)

貞享二乙<sup>(年貳)</sup> 丑 初夏下旬令真誦畢 三州松形山法印昶深修行之

卷第一七六

(奥書)

貞享乙<sup>(年號)</sup> 丑 初夏吉辰令真誦 三州松形山法印昶深行之

卷第一八二

(奥書)

貞享乙<sup>(年號)</sup> 丑 年初夏下旬令真誦畢 三州松形山法印昶深勤之

卷第一七七

(奥書)

貞享乙<sup>(年號)</sup> 丑 年初夏下旬令校誦畢 三州松形山法印昶深勤之

卷第一八三

(奥書)

貞享乙<sup>(年號)</sup> 丑 初夏下旬令独吟畢 三州松形山法印昶深勤

卷第一七八

(奥書)

貞享乙<sup>(年號)</sup> 丑 年初夏下旬令真誦畢 松形山法印昶深

卷第一八四

(奥書)

貞享乙<sup>(年號)</sup> 丑 年仲夏初日令真誦畢 三州松形山法印昶深修行之

卷第一七九

(奥書)

貞享乙<sup>(年號)</sup> 丑 初夏下旬令校誦畢 三州松形山法印昶深修行之

卷第一八五

(奥書)

貞享乙<sup>(年號)</sup> 丑 仲夏日令真誦畢 三州松形山法印昶深勤行之

卷第一八〇

(奥書)

貞享乙<sup>(年號)</sup> 丑 天初夏下旬令校誦畢 三州松形山法印昶深勤行之

卷第一八六

(奥書)

誦誦畢沙門昶深

卷第一八一

(奥書)

貞享乙<sup>(年號)</sup> 丑 年初夏日令真誦畢 三州松形山法印昶深勤行之  
「願以誦誦力 師父母共身 資糧菩提心 自他成仏道矣」

卷第一八七

(奥書)

于時貞享乙<sup>(年號)</sup> 丑 仲夏上旬令真誦畢 三州松形山法印昶深誦之

卷第一八八

(奥書)

貞享二乙<sup>(年號)</sup> 丑 仲夏上旬令校読畢 三州松形山法印昶深

卷第一八九

(奥書)

貞享二乙<sup>(年號)</sup> 丑 仲夏上旬令真読畢 三州松形山法印昶深修行之

卷第一九〇

(奥書)

貞享二乙<sup>(年號)</sup> 丑 仲夏上旬奉校読畢 三州松形山法師昶深修行之

卷第一九一

(奥書) ナシ

卷第一九二

(奥書)

貞享二乙 丑 年夏五月上旬令読誦畢 三州松形山法印昶深修行之

卷第一九三

(奥書)

貞享二乙<sup>(年號)</sup> 丑 仲夏上旬令真読畢 三州松形山法印昶深修行之

卷第一九四

(奥書)

貞享二乙<sup>(年號)</sup> 丑 仲夏日令真読畢 松形山法印昶深

卷第一九五

(奥書)

貞享二乙 丑 年仲夏上旬令真読誦畢 三州 普門寺法印昶深

卷第一九六

(奥書)

貞享二乙 丑 年仲夏上旬日奉読畢 松形山住持法印昶深

卷第一九七

(奥書)

貞享二乙 丑 年仲夏上旬奉令真読誦畢 三州松形山法印昶深

卷第一九八

(奥書)

貞享二乙 丑 年七月上旬令真読 三州松形山法印昶深修行之

卷第一九九

(奥書)

貞享二乙 丑 年仲夏日令真読畢 三州松形山法印昶深修行之

卷第二〇〇

(奥書)

于時貞享二乙<sup>〔正題〕</sup> 丑 仲夏上旬迄仁都合二百卷奉令真読独吟勤修之上献三宝中報四恩及師父母下共皆成正覚道者

三州船形山普門寺住持法印昶深読校

権三郎

忠太■

貞享二乙<sup>〔正題〕</sup> 丑 仲夏日令真読畢 三州船形山法師昶深修行之

卷第二〇四

(奥書) ナシ

卷第二〇一

(奥書)

奉寄進為二世安楽也施主三州吉田本町三十郎  
兵左衛門

若狭守

貞享二乙 丑 年五月上旬日令真読畢 三州船形山法印昶深

卷第二〇五

(奥書)

「奉寄進為二世安楽也施主三州吉田本町

高須久太夫」

貞享二乙<sup>〔正題〕</sup> 丑 仲夏日令真読畢 船形山法印昶深

卷第二〇二

(奥書)

奉寄進為二世安楽也施主三州吉田本町方順  
六郎四郎

六右衛門

皆貞享二乙 丑 歲仲夏上旬令真読畢 船形山法師昶深修行之

卷第二〇六

(奥書)

「奉寄進為二世安楽也施主三州吉田本町」

貞享二乙 丑 年仲夏上旬令真読畢 三州船形山法印昶深修行之

加兵衛

卷第二〇七

(奥書)

「奉寄進為二世安楽之

地六町中」

貞享二乙 丑 年仲夏上旬令真読畢 三州船形山沙門昶深修行之

卷第二〇三

(奥書)

「奉寄進為二世安楽也施主三州吉田本町久兵衛  
心西房

卷第二〇八

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也施主三州吉田本町

孫兵衛 甚兵衛 同家来十二人

秀伝房

貞享<sup>(一)乙</sup> 卅 歲仲夏上旬令校誦畢 三州船形山法印昶深修行之

卷第二〇九

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也施主三州吉田本町

長讚房

貞享<sup>(一)乙</sup> 卅 歲仲夏上流日令真誦畢 三州船形山法印昶深誦之

卷第二一〇

(奥書) ナシ

卷第二一一

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也施主三州吉田田町

武衛 孫太夫 多郎兵衛 惣兵衛 彦七右衛門

吉九郎 作右衛門 長右衛門 多兵衛 五兵衛

貞享<sup>(一)乙</sup> 卅 歲仲夏日令誦之畢 三州船形山法印昶深

卷第二一二

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也施主三州吉田曲尺町

安藤七郎左衛門

貞享<sup>(一)乙</sup> 卅 年仲夏上旬令真誦畢 三州船形山普門寺法印昶深修行之

卷第二一三

(奥書)

「三州吉田

奉寄進為二世安樂也 下り町中

貞享<sup>(一)乙</sup> 卅 歲仲夏上旬令真誦畢 三州船形山法印昶深勤之

卷第二一四

(奥書)

「三州吉田坂下町

奉寄進為二世安樂 山田兵三助

貞享<sup>(一)乙</sup> 卅 歲仲夏上旬日令真誦畢 三州船形山法印昶深修行之

卷第二一五

(奥書)

「三州吉田坂下町

奉寄進法界衆生為二世安樂大菩提 某等

貞享<sup>(一)乙</sup> 卅 歲仲夏上旬令真誦畢 三州船形山沙門昶深修行之



卷第二一六

(奥書)

〔奉寄進為二世安樂也

三州吉田曲手町 權八衛門

為心翁宗伝 大菩提也  
涼雲壽清

貞享二乙丑 歲仲夏上旬日令真誥畢 三州船形山法印昶深修行之

卷第二一七

(奥書)

〔奉寄進為二世安樂也施主三州吉田曲尺町

甚右衛門 小兵衛

仁兵衛 新右衛門

小左衛門 藤七

權右衛門 次兵衛

皆貞享歲次乙丑仲夏上旬令真誥畢 三州船形山法印昶深修行之

卷第二一八

(奥書)

〔奉寄進為二世安樂已三州吉田今新町中

太郎右衛門 喜兵衛 平右衛門 喜左衛門

老兵衛 加兵衛 長大夫 平左衛門

次兵衛 平兵衛 甚左衛門 太平次

九郎兵衛 喜平次 九兵衛 長右衛門

市右衛門 加右衛門 九左衛門 七左衛門

權四郎 喜助 小平次 吉兵衛

弥次兵衛 伊左衛門 兵左衛門 六兵衛

七郎兵衛 喜次郎 五兵衛 平兵衛

喜左衛門 清次郎 次右衛門 次左衛門

孫左衛門 儀左衛門 加平次 善七

加左衛門 喜右衛門 甚八 伝左衛門

弥兵衛 吉左衛門 金右衛門 長左衛門

貞享乙丑<sup>(二彪)</sup>仲夏上旬令真誥畢 三州船形山法印昶深修行之

〔平十郎 市右衛門 金右衛門

新左衛門 忠大夫 甚助

清右衛門 七藏 左五兵衛

勘兵衛 權助 德兵衛

左平次 左兵衛

卷第二一九

(奥書)

〔奉寄進為二世安樂之三州吉田曲尺町

大木十右衛門

庄右衛門

川村茂右衛門

貞享乙丑<sup>(二彪)</sup>仲夏吉辰令真誥畢 三州船形山法印昶深勤之

卷第二二〇

(奥書)

「奉寄進 世古町中 為二世安樂也  
元鍛治町中」

貞享<sup>(二題)</sup>乙丑夏五月上旬令真誥畢 三州船形山法印昶深勤仕之

卷第二二一

(奥書)

「上伝馬

施主三州吉田 山下善九郎

妻」

貞享二乙丑<sup>(年脱)</sup>仲夏五月上旬令校誥畢 三州船形山法印昶深勤之

卷第二二二

(奥書)

「施主三州吉田上伝馬町

山下善九郎」

貞享二歲次乙丑 仲夏上浣日奉使誥畢 三州船形山法師昶深欽誦之

卷第二二三

(奥書)

「奉寄進 施主三州吉田上伝馬町

為念法是心居士  
松白清寿大姉各菩提

中川彦兵衛」

皆貞享歲次乙丑仲夏五月上旬令真誥 三州船形山法印昶深修行之

卷第二二四

(奥書)

貞享歲次乙丑夏五月上旬令真誦 船形山法印昶深

「施主三州吉田

西譽

貞屋」

卷第二二五

(奥書)

「施主三州吉田上伝馬町

真弓佐平」

皆貞享歲次乙丑夏五月上旬日令真誥

三州船形山法印昶深修行之

卷第二二六

(奥書)

貞享歲次乙丑仲夏五月上旬令真誥 三州船形山法印昶深修行之

「施主三州吉田上伝馬町

鶴田八左衛門」

卷第二二七

(奥書) ナシ

卷第二二八

(奥書)

皆貞享歲次乙丑仲夏日令真読校合 三州松形山法印昶深勤之

「三州渥美郡吉田上伝馬町

奉奇進御経一卷

酒井庄兵衛」

卷第二二九

(奥書)

「施主三州吉田上伝馬町大山伊兵衛」

皆貞享乙丑仲夏日

奉誦文字校合畢 三州松形山法印昶深欽読

卷第二三〇

(奥書)

于時貞享歲次乙丑仲夏上浣日奉拜誦 三州松形山法師昶深欽読

「三州渥美郡吉田上伝馬町

奉奇進御経一卷

井上市右衛門  
伊藤彦八郎」

卷第二三一

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也施主三州吉田曲尺町

藤山吉兵衛」

貞享歲次乙丑仲夏日令真読 三州松形山法印昶深欽読

卷第二三二

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也施主三州吉田町

庄七郎」

貞享二乙丑年夏五月上旬令校合誦之三州松形山法印昶深勤行之

(表紙見返し)

「觀誓淨念

心月妙性

照誓光遍

波休淳清 為菩提」

卷第二三三

(奥書)

貞享歲次乙丑仲夏上旬令真読 三州松形山法師昶深修行之

「奉寄進為二世安樂也施主三州吉田曲尺町

大草權兵衛  
新兵衛」

卷第二三四

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也 施主三州吉田田町

平左衛門 半右衛門

中右衛門 右左衛門

甚左衛門 五兵衛

与平次

于時貞享<sup>(二)</sup>乙<sup>(年號)</sup>仲夏上旬令校読 三州松形山法印昶深誦之

卷第二三五

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也施主三州吉田札木町

長兵衛 五郎左衛門 伊右衛門 左五右衛門

与次右衛門 長太夫 庄八 五郎兵衛

兵左衛門 市十郎 市兵衛 兵左衛門

皆貞享歲次乙丑仲夏上旬日令校読 三州松形山法師昶深修行之

「甚助 市左衛門 五左衛門 太郎兵衛

新右衛門 長言房 三郎平 長助

吉十郎 甚右衛門 仁右衛門 庄太夫

源四郎

卷第二三七

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也施主三州吉田田町

八兵衛

庄右衛門

久五郎

貞享<sup>(二)</sup>乙<sup>(年號)</sup>夏五月令誦畢 松形山昶深勤之

卷第二三八

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也施主三州吉田多町<sup>(四)</sup>

孫惣 市十郎 平兵衛 久左衛門

孫次兵衛 小兵衛 李兵衛 久兵衛

徳兵衛 七大夫 文左衛門 与惣左衛門

貞享<sup>(二)</sup>乙<sup>(年號)</sup>仲夏中旬日令真読 三州松形山法印昶深勤之

卷第二三六

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也施主三州吉田曲尺町

為 秋齋賢<sup>(三)</sup> 三菩提也 松浦二郎八

皆貞享<sup>(二)</sup>乙<sup>(年號)</sup>仲夏上旬日令真読 三州松形山法師昶深奉誦之

卷第二三九

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也施主三州吉田札木町

半兵衛 兵太郎

伝右衛門 孫太郎

久太郎 清右衛門

孫十郎 權六郎

惣左衛門 伝吉

利兵衛 彦五郎 一  
貞享<sup>(一應)</sup>乙丑仲夏中旬日令真読 三州船形山法印昶深誦

卷第二四〇

(奥書)

〔奉寄進為二世安穩也施主三州吉田札木町

孫四郎 平三郎 平右衛門 太左衛門 次左衛門

喜平次 権右衛門 吉兵衛 新助 七兵衛

勘左衛門 清右衛門 市右衛門 善五左衛門 久右衛門

次郎吉 新右衛門 七郎兵衛 又兵衛 半右衛門

新三郎 又次郎 喜右衛門 次兵衛

三十郎 伏見屋 善七衛門 正庵

于時貞享歲次乙丑仲夏中旬令真読畢 三州船形山法印昶深誦焉

卷第二四一

(奥書)

〔奉寄進為二世安樂也

岡部清四郎

光赫道威 碧霄良夫

大岑芳円 出庭妙林

皆貞享歲次乙丑仲夏中旬令真読 三州船形山法印昶深修行之

卷第二四二

(奥書)

〔奉寄進為二世安樂也

北六町中

三州吉田

皆貞享歲次乙丑仲夏中旬日令真読畢 三州船形山法師昶深修行之

卷第二四三

(奥書)

三州吉田坂下町

〔奉寄進為二世安樂

貞享乙丑年仲夏中旬令真読畢 三州船形山法印昶深奉誦之

卷第二四四

(奥書)

〔奉寄進三州吉田曲尺町為二世安穩也

大米五兵衛

別所市兵衛

〔歲次乙丑仲夏中旬令校読畢 三州船形山法印昶深欽誦之

卷第二四五

(奥書)

〔奉寄進為二世安樂三州吉田

八木彦大夫

九郎兵衛

久兵衛

權兵衛」

貞享二年仲夏中旬日令真說畢 三州船形山普門寺沙門昶深修行之

卷第二四六

(奥書)

三州吉田

奉寄進二世安樂為大菩提

山田六三郎

貞享歲次乙丑五月中旬令真說畢

三州船形山法印昶深

卷第二四七

(奥書)

「奉寄進為二世安樂之

吉左衛門 八兵衛 国

平六 作兵衛へ

三州吉田坂下町

「貞享歲次乙丑五月中旬令校說畢

三州船形山法印昶深誦之

卷第二四八

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也

施主三州吉田田町

市郎兵衛

六兵衛

船形山法師昶深

卷第二四九

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也

吳服町中  
曲尺手町

令真說畢法印昶深

卷第二五〇

(奥書)

「奉寄進紺屋町

六左衛門 彦右衛門 仁助 仁兵衛 吉兵衛

長藏 長助 善兵衛 權七郎 戸右衛門

久右衛門 久八郎 惣次 喜平次 唯八郎

勘右衛門 庄右衛門 權七 彦三郎 源之助

八兵衛 權右衛門 勘兵衛 才兵衛 吉兵衛

次郎兵衛 ワタバウシ屋

五郎兵衛 善五郎 儀太郎 長九郎 權之助 善助 勘兵衛

久太郎 弥平 六右衛門 吉兵衛 勘兵衛 作兵衛 キヌ一

太右衛門 長五郎 久右衛門 十兵衛 平之介 惣助 太郎兵衛

三郎兵衛 長三郎 作藏 久兵衛 四郎兵衛 六之介 平助

長三郎 七左衛門 八左衛門 伊左衛門 元甫 七郎兵衛 たこ介

「貞享歲次乙丑夏五月仲旬令真說畢 三州船形山法印昶深誦校之

上獻三宝 中報四恩 下及六道 皆悉利益 奉說誦所如斯

「弥右衛門 金大夫 友八郎 四郎兵衛 おまん 元兵衛 新右衛門  
右如此之

卷第二八一

(奥書)

〔三州吉田魚町中〕

貞享歲次乙丑夏五月下旬令真誥 三州船形山法印昶深勤之

權之祐 清八 理之丞 伝兵へ

長左衛門 權右衛門 与太夫 伝十郎

四郎之丞 所左衛門 長太夫 茂右衛門

次之丞 九左衛門 右左衛門 市左衛門

孫平次 金之丞 利左衛門

皆貞享二乙丑年仲夏下旬令真誥 三河国船形山法印昶深勤行之

卷第二八二

(奥書)

〔三州吉田坂下町〕

奉寄進二世安樂為大菩提 須覚了■

貞享二乙丑年五月下旬令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第二八五

(奥書)

〔三州吉田魚町中〕

貞享二乙丑<sup>(重題)</sup>仲夏下旬令真誥 三州船形山法印昶深校誥之

卷第二八三

(奥書)

〔三州吉田魚町〕

香荷妙■信女

長三郎

伝左衛門

長太夫

十三

卷第二八六

(奥書)

〔奉寄進為二世安■施主三州吉田田町〕

佐平次 長八郎 利右衛門

三右衛門 四郎左衛門 八郎兵衛

長右衛門 清右衛門 加七衛門

貞享二歲夏五月下旬令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

貞享二乙丑年夏五月下旬日令独誦 三州船形山法師昶深勤行之

卷第二八四

(奥書)

〔奉寄進為二世安樂也 三州吉田下町中〕

仁助 甚之丞 利右衛門 仁平次

卷第二八九

(奥書)

〔奉寄進為二世安樂也 施主三州吉田田町〕

八右衛門 弥次郎 伝十郎

三左衛門 長七衛門 勘七郎

權右衛門 權左衛門 太左衛門」

貞享二乙 丑 歲仲夏下旬令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

「忠太夫 文七郎 仁左衛門

七左衛門 多右衛門 藤兵衛

重兵衛

清左衛門 次兵衛 九左衛門

お太弥」

卷第二九二

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也 施主三州吉田曲尺町

白井平八

為露秋童女幻身童子大菩提也 七郎右衛門」

貞享二乙 丑 年仲夏下旬日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第二九三

(奥書)

「奉寄進為二世安樂 施主三州吉田船町 浅井反次右衛門」

令真誥畢法師昶深誦之

卷第二九〇

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也 三州吉田本町

施主聖長春房」

令真誥畢沙門昶深勤之

卷第二九四

(奥書)

「奉寄進為二世安樂 施主三州吉田船町 平兵衛」

令真誥畢沙門昶深

卷第二九一

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也

三州吉田吉金年町

萩山清右衛門

為妙性大菩提 山田三益

萩山仁八郎」

卷第二九五

(奥書)

「奉寄進為六親菩提 施主二世安樂

三州吉田船町

平兵衛」

貞享二乙 丑 年仲夏下流日令真誥 三州船形山法師昶深勤行之

令真誥畢 昶深勤之



卷第二九六

(奥書)

貞享二乙 丑年仲夏下旬日令真読 三州松形山法印昶深勤行之

「奉寄進為二世安樂之

三州吉田天王町中」

卷第三〇〇

(奥書)

「奉寄進三州吉田松町中 少分集之分」

貞享二乙 丑年仲夏下旬日令真読畢 三州松形山法印昶深勤行之

卷第二九七

(奥書)

「奉寄進三州吉田船町中 奉加集分」

真読畢 昶深

卷第三〇一

(奥書)

「奉寄進為堂岳浄天庵主大菩提之

施主三州吉田呉服町林弥吉為親父」

貞享二乙 丑年仲夏下旬日令真読 三州松形山法印昶深勤之

卷第二九八

(奥書)

「奉寄進

施主三州吉田上伝馬町

杉浦又兵衛

清水作兵衛」

卷第三〇二

(奥書)

「奉寄進為堂岳浄天庵主大菩提也

施主三州吉田呉服町林弥吉為親父」

貞享二乙 丑年仲夏下旬日令真読畢 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三〇三

(奥書)

「奉寄進為堂岳浄天庵主大菩提也

施主三州吉田呉服町林弥吉為親父」

貞享二乙 丑年仲夏下旬日令真読 三州松形山普門寺住持昶深修行之

三州吉田下り町仲」

「奉寄進為二世安樂也

貞享二乙 丑年仲夏日令真読 三州松形山沙門昶深修行之

卷第三〇四

(奥書)

「奉奇進為堂岳浄天庵主大菩提也」

施主三州吉田呉服町弥吉親為」

貞享二乙 丑年仲夏下旬日令真誥 三州船形山法印昶深修行之

卷第三〇五

(奥書)

「奉奇進為堂岳浄天庵主大菩提也」

施主三州吉田呉服町林弥吉為親父」

貞享二乙 丑年仲夏下旬日令真誥 三州船形山法師昶深修行之

卷第三〇六

(奥書)

「奉奇進為昌室貞繁大姉二世安樂也」

施主三州吉田呉服町林弥吉為母」

真誥畢法印昶深修行之

卷第三〇七

(奥書)

「奉奇進為昌室貞繁二世安樂也」

施主三州吉田呉服町林弥吉為母」

貞享二乙 丑年仲夏下旬日令真誥 三州船形山法印昶深修行之

卷第三〇八

(奥書)

「奉奇進為二世 [ ] 室貞繁大姉

[ ] 州吉田呉服町林弥吉為母」

貞享二乙 丑年仲夏下旬日令真誥 三州船形山住持沙門昶深修行之

卷第三〇九

(奥書)

「奉奇進為昌室貞繁大姉二世安樂也」

施主三州吉田呉服町林弥吉為悲母」

貞享二乙 丑年仲夏下旬日令真誥 三州船形山法印昶深修行之

卷第三一〇

(奥書)

「奉奇進為昌室貞繁二世安樂也」

施主三州吉田呉服町林弥吉為母」

貞享二乙 丑年仲夏下旬日令真誥 三州船形山法師昶深修行之

卷第三一一

(奥書)

「奉奇進

施主下総国行徳猫実村宇田川七郎兵衛」

貞享二乙 丑年仲夏下旬日令真誥 三州船形山法印昶深修行之

「若欲懺悔者 端座思実相

衆罪如霜露 惠日能消除文」

卷第三二二

(奥書)

皆貞享二乙 丑年林鐘上旬日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三二三

(奥書)

皆貞享二乙 (金匱) 丑下夏下旬日令真誥 三州松形山沙門昶深誦之

卷第三二四

(奥書)

貞享二乙 丑年六月上旬日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三二五

(奥書)

「奉寄進

施主下総国行徳猫実村宇田川七郎兵衛

若欲懺悔者 端坐思実相

衆罪如霜露 惠日能消除文

貞享二乙 丑 歳林鐘上旬日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三二六

(奥書)

貞享二乙 丑年林鐘上旬日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三二七

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬日令真誥 三州松形山法師昶深勤行之

卷第三二八

(奥書)

貞享二乙 丑年六月十日令真誥 三州松形山沙門昶深勤之

卷第三二九

(奥書)

「奉寄進

施主下総国行徳猫実邑宇田川七郎兵衛」

皆貞享二乙 丑年林鐘中旬令真誥 三州松形山法師昶深勤行之

「若欲懺悔者 端坐思実相

衆罪如霜露 惠日能消除文」

卷第三三〇

(奥書)

「奉寄進

施主下総国行徳猫実郷宇田川七郎兵衛

若欲懺悔者 端坐思実相

衆罪如霜露 惠日能消

除」

令誦畢昶深勤之

卷第三二一

(奥書)

令真誦沙門昶深勤行之

于時貞享式<sup>乙</sup> 丑年六月中旬令真誦 三州松形山沙門昶深勤行之

卷第三二七

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年六月中旬令真誦 三州松形山沙門昶深勤行之

卷第三二二

(奥書)

皆貞享二<sup>乙</sup> 丑年林鐘中旬令真誦 三州松形山法印昶深誦之

卷第三二八

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年林鐘中旬日令真誦 三州松形山沙門昶深勤行之

卷第三二三

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年六月中旬日令真誦 三州松形山沙門昶深

卷第三二九

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年林鐘中旬令真誦 三州松形山沙門昶深勤行之

卷第三二四

(奥書)

皆貞享二<sup>乙</sup> 丑年六月中旬令真誦 三州松形山法印昶深誦之

卷第三三〇

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年六月中旬日令真誦 三州松形山沙門昶深勤行之

卷第三二五

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年林鐘中旬令真誦 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三三一

(奥書)

皆貞享二<sup>乙</sup> 丑年六月中旬日令真誦 三州松形山法印昶深勤之

卷第三二六

(奥書)

卷第三三二

(奥書)

貞享二乙 丑年林鐘中旬日令真誥 三州松形山沙門昶深勤行之

卷第三三三

(奥書)

皆貞享二乙 丑夏月中旬令真誥 三州松形山沙門昶深勤行之

卷第三三四

(奥書①)

貞享二乙 丑年六月中旬令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

(奥書②)

「奉寄進

施主下総国行徳猫実村字田川七郎兵衛」

貞享二乙 丑年六月上旬日令真誥 三州松形山沙門昶深勤行之

「号欲懺悔者 端坐思実相

衆罪如霜露 惠日能消除文」

卷第三三五

(奥書)

令真誦畢 沙門昶深勤之

卷第三三七

(奥書)

貞享二乙 丑年六月中旬日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三三八

(奥書)

貞享二乙 丑年六月中旬日令真誥 三州松形山沙門昶深

卷第三三九

(奥書)

貞享二乙 丑年六月中旬日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三四〇

(奥書)

貞享二乙 丑年六月中旬令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三四一

(奥書)

貞享二乙 丑年六月中旬令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三四二

(奥書)

皆貞享二乙 丑年六月中旬日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三四三

(奥書)

貞享二乙 丑年 林鐘中流日令真誥 三州松形山沙門昶深誦之

卷第三四四

(奥書)

貞享二乙 丑年六月中旬令真読 三州船形山法師昶深誦之

卷第三四五

(奥書)

貞享二乙 丑年六月中旬令真読 三州船形山法師昶深勤行之

卷第三四六

(奥書)

貞享二乙 丑年六月中旬日令真読 三州船形山沙門昶深勤行之

卷第三四七

(奥書)

貞享二乙 丑年六月中旬令真読 三州船形山沙門昶深修行之

卷第三四八

(奥書)

貞享二乙 丑年六月中旬令真読 三州船形山沙門昶深勤行之

卷第三四九

(奥書)

貞享二年乙 丑六月中旬令真読 三州船形山法印昶深勤行之

卷第三五一

(奥書)

貞享二乙 丑年六月中旬日令真読 三州船形山沙門昶深誦之

卷第三五二

(奥書)

貞享二乙 丑年六月中旬令真読 三州船形山法印昶深勤行之

卷第三五三

(奥書)

貞享二乙 丑年六月中旬日令真読 三州船形山法印昶深誦之

卷第三五四

(奥書)

貞享二乙 丑年六月中旬日令真読 三州船形山法印昶深勤行之

卷第三五五

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬令真読 三州船形山法印昶深勤行之

卷第三五六

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬令真読 三州船形山沙門昶深勤行之

卷第三五七

(奥書)

貞享二乙 丑年林鐘下旬日令真誥 三州松形山沙門昶深勤行之

卷第三六三

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬日令真誥 三州松形山沙門昶深誦之

卷第三五八

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬日令真誥 三州松形山法印昶深誦之

卷第三六四

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬日令真誥 三州松形山法印昶深修行之

卷第三五九

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬日令真誥 三州松形山法師昶深勤行之

卷第三六五

(奥書)

「 清次郎 庄次郎 孫五兵へ 十大夫  
奉寄進為二世安樂也 助衛門 善衛門 甚兵へ 与八

卷第三六〇

(奥書)

貞享二乙 丑年林鐘下旬日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

利左衛門 善次郎 庄左衛門 よめ  
安左衛門 三郎衛門

卷第三六一

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬日令真誥 三州松形山沙門昶深誦之

卷第三六六

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三六二

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬日令真誥 三州松形山沙門昶深誦之

卷第三六七

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬日校誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三六八

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬令真誥 三州船形山沙門昶深誦之

卷第三七五

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第三六九

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第三七六

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬令真誥 三州船形山昶深誦

卷第三七〇

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第三七七

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第三七一

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第三七八

(奥書)

貞享二乙 丑稔文月上旬日令真誥 三州船形山法印昶深修行之

卷第三七二

(奥書)

貞享二乙 丑年六月下旬日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第三七九

(奥書)

貞享二乙 丑<sup>年終</sup>七月上旬令真誥 船形山昶深誦之

卷第三七四

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬日令真誥 三州船形山法師昶深勤行之

卷第三八〇

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬令真誥 三州船形山法印昶深勤之



卷第三八一

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬日令真読 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三八七

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬令真読 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三八二

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬日令真読 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三八八

(奥書)

貞享二乙 丑年文月上旬令真読 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三八三

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬令真読 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三八九

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬日令真読 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三八四

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬日令真読 松形山法印昶深勤之

卷第三九〇

(奥書)

貞享二乙 丑 歳文月上旬日令真読 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三八五

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬令真読 松形山沙門昶深誦

卷第三九一

(奥書)

令真読畢下<sup>マツ</sup> 沙門昶深勤行之

卷第三八六

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬日令真読 三州松形山沙門昶深勤行之

卷第三九二

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬日令真読 三州松形山法師昶深勤行之

卷第三九三

(奥書)

貞享二乙 丑年霜月吉日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三九四

(奥書)

貞享二乙 丑年文月上旬日令真誥 三州松形山沙門昶深

卷第三九五

(奥書)

貞享二乙 丑年文月上旬日令真誥 三州松形山沙門昶深勤行之

卷第三九六

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三九七

(奥書)

貞享式乙 丑年七月上旬日令真誥 三州松形山法師昶深欽奉誦畢

卷第三九八

(奥書)

貞享乙 丑年七月上旬令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第三九九

(奥書)

貞享二乙 丑年七月上旬日令真誥 三州松形山沙門昶深勤行之

卷第四〇〇

(奥書)

皆貞享二乙 丑年七月上旬令真誥 四百卷独吟畢為報恩謝德二世悉地也  
三州松形山法印昶深勤行之

卷第四〇一

(奥書)

「奉寄進為二世安樂 御施主吉田金之手町永養坊任盛  
願主松形山法印昶深

皆貞享元甲 子年六月吉祥日

皆貞享二乙 丑年八月上旬令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第四〇二

(奥書)

「奉寄進為二世安樂 御施主吉田金之手町  
永雲坊光玄

皆貞享元甲 子年六月吉祥日願主普門寺法印昶深

令真誥畢

卷第四〇三

(奥書)

「奉寄進為二世安樂 御施主吉田金之手町養俊房真海」

貞享元<sup>甲</sup> 子年六月吉祥日

令真読畢

三州松形山梧桐園院法印昶深願求

卷第四〇四

(奥書)

「奉寄進為二世安樂水真房盛■」

吉田金之手町

貞享元<sup>甲</sup> 子年六月吉祥日 松形山願主法印昶深

令真読畢

卷第四〇五

(奥書)

「奉寄進御施主 吉田金之手町 德養房覺詮 令真読畢」

貞享元<sup>甲</sup> 子年六月吉祥日 三州松形山沙門昶深求之

卷第四〇六

(奥書)

「奉寄進御施主 吉田金之手町 養雲房光寛」

為二世安樂也 令真読畢

願主松形山普門寺

貞享元<sup>甲</sup> 子年六月吉祥日 沙門昶深

卷第四〇七

(奥書)

「奉寄進 御施主 吉田金之手町 真養房任海」

為二世安樂也

貞享元<sup>甲</sup> 子年六月吉祥日 願主松形山法印昶深

令真読畢

卷第四〇八

(奥書)

「奉寄進御施主 吉田金之手町 俗名長三郎」

為二世安樂也

皆貞享元<sup>甲</sup> 子年六月吉祥日 普門寺願主沙門昶深

令真読畢

卷第四〇九

(奥書)

「奉寄進御施主 吉田金之手町 俗名亦三郎」

為二世安樂也

皆貞享元<sup>甲</sup> 子年六月吉祥日 松形山普門寺

令真読畢 法印昶深

卷第四一〇

(奥書)

「奉寄進釈法名善知信士為菩提

御施主三州吉田金之手町永養房任盛為親父也」

皆貞享年<sup>甲</sup>子年六月吉祥日 船形山願主沙門昶深

令真誦畢

卷第四一一

(奥書)

「奉寄進釈法名妙寿信女為菩提也

御施主三州吉田金之手町永養任盛為母儀

令真誦畢

皆貞享年<sup>甲</sup>子年六月吉祥日 船形山願主沙門昶深

卷第四一二

(奥書)

「奉寄進釈法名妙玉信女為菩提 御施主吉田金之手町

任盛永養坊

貞享年<sup>甲</sup>子年六月吉日令真誦畢 船形山願主沙門昶深

卷第四一三

(奥書)

「奉寄進 雲谷吉左衛門 為各兩親菩提」  
道心者自清

貞享三年八月中旬令真誦 三州船形山法師昶深動行之

卷第四一四

(奥書)

「奉寄進 釈法名 淨西信士 為各菩提  
妙泉信女

御施主三州吉田金之手町任盛永養坊為兄弟也」

皆貞享年<sup>甲</sup>子年六月吉祥日 船形山法印昶深願求

令真誦畢

卷第四一五

(奥書)

「奉寄進為二親大菩提也 施主白次加町馬場兵三郎」

貞享二乙<sup>丑</sup>年八月中旬日令真誦 三州船形山法印昶深動行之

卷第四一六

(奥書)

貞享二乙<sup>丑</sup>年八月中旬令真誦 三州船形山沙門昶深

「奉寄進為子孫延命也施主白次加町馬場兵三郎」

卷第四一七

(奥書)

貞享二乙<sup>丑</sup>年八月吉辰令真誦 三州船形山法印昶深動之

卷第四一八

(奥書)

貞享二乙 丑年八月吉祥日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第四一九

(奥書)

貞享二乙 丑年八月中旬令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第四二〇

(奥書)

貞享二乙 丑年八月中旬令真誥 沙門昶深勤行之

卷第四二一

(奥書)

〔奉寄進為鑑光自照女菩提也〕

貞享二乙 丑年九月吉祥日令真誥 三州船形山沙門昶深勤之

卷第四二二

(奥書)

〔奉寄進為鑑光自照女菩提也〕

貞享二乙 丑年九月吉祥日 三州船形山令真誥畢 法師昶深勤之

卷第四二三

(奥書)

〔奉寄進為鑑光自照女菩提也〕

貞享二乙 丑年九月上旬於船形山令真誥畢 沙門昶深勤行之

卷第四二四

(奥書)

〔奉寄進為鑑光自照女菩提也〕

貞享二乙 丑年九月上旬令真誥 船形山法印昶深勤行之

卷第四二五

(奥書)

〔奉寄進為鑑光自照女菩提也〕

貞享二乙 丑年九月吉祥日令真誥 三州船形山沙門昶深勤行之

卷第四二六

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉祥日令真誥 三州船形山沙門昶深勤行之

卷第四二七

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真誥 三州船形山法印昶深修行之

卷第四二八

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉祥日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第四二九

(奥書)

貞享二乙 丑年九月上旬令真誥 三州船形山沙門昶深修行之

卷第四三五

(奥書)

貞享二乙 丑歲九月吉日令真誥 三州船形山昶深勤之

卷第四三〇

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉祥日令真誥 三州船形山沙門昶深勤之

卷第四三六

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真誥 三州船形山沙門昶深修行之

卷第四三一

(奥書)

貞享二乙 丑年九月上旬令真誥 三州船形山沙門昶深誦之

卷第四三七

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真誥 三州船形山沙門昶深勤之

卷第四三二

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真誥 船形山沙門昶深

卷第四三九

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真誥 三州船形山普門寺沙門昶深修行之

卷第四三三

(奥書)

貞享二年乙 丑年九月上旬令真誥 三州船形山沙門昶深修行之

卷第四四〇

(奥書)

年九月吉日令真誥 三州船形山沙門昶深修行之

卷第四三四

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤之

卷第四四一

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉祥日令真誥 三州船形山沙門昶深勤行之

卷第四四二

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真読 三河国渥美郡松形山法印昶深勤之

卷第四四八

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真読 三州松形山沙門昶深勤行之

卷第四四三

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真読 三州松形山法印昶深勤行之

卷第四四九

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真読 三州松形山法印昶深勤行之

卷第四四四

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真読 三州松形山沙門昶深欽誦文字校合畢

卷第四五〇

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真読 三州松形山法印昶深勤行之

卷第四四五

(奥書)

貞享二天九月吉日令真読 松形山沙門昶深勤之

卷第四五一

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真読 三州松形山法印昶深勤之

卷第四四六

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真読 三州松形山沙門昶深勤行之

卷第四五二

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真読 三州松形山法印昶深勤行之

卷第四四七

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真読 三州松形山沙門昶深勤之

卷第四五三

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真読 三州松形山法印昶深勤行之

卷第四五四

(奥書)

貞享貳<sup>乙</sup> 丑年九月吉祥日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第四五五

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年九月吉日令誥誦 松形山法印昶深勤之

卷第四五六

(開卷不能)

卷第四五七

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年九月吉祥日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第四五八

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年九月中旬日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第四五九

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年九月吉祥日令真誥 三州松形山法師昶深勤行之

卷第四六〇

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年九月吉祥日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第四六一

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年九月吉祥日 三州松形山法印昶深勤行之

卷第四六二

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年九月吉日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第四六三

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年九月吉祥日令真誥 松形山法印昶深勤行之

卷第四六四

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年九月吉祥日令真誥 三州松形山沙門昶深修行之

卷第四六五

(奥書)

貞享二<sup>乙</sup> 丑年九月吉祥日令真誥 三州松形山法印昶深



卷第四六六

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第四六七

(奥書)

貞享二乙 丑年重陽月中旬令真誥 三州船形山法師昶深修行之

卷第四六八

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真誥 三州船形山沙門昶深勤之

卷第四六九

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真誥 三州船形山法印昶深

卷第四七〇

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真誥 船形山法印昶深

卷第四七一

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉辰令真誥 三州船形山法印昶深勤之

卷第四七二

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉祥日令真誥 船形山沙門昶深

卷第四七三

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉日令真誥 三州船形山法印昶深

卷第四七四

(奥書)

貞享二乙 丑年九月吉祥日令真誥 三州船形山法印昶深

卷第四七五

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉祥日令真誥 船形山法印昶深勤之

卷第四七六

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山沙門昶深勤行之

卷第四七七

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山法師昶深勤行之

卷第四七八

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真読 三州船形山法印昶深勤行之

卷第四八四

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真読 三州船形山法印昶深勤行之

卷第四七九

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真読 三州船形山法印昶深修行之

卷第四八五

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真読 三州船形山教門昶房昶深

卷第四八〇

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日奉真読 三州船形山法印昶深修行之

卷第四八六

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真読 船形山昶深修行之

卷第四八一

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真読 船形山沙門昶深修行之

卷第四八七

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真読 三州船形山法印昶深勤之

卷第四八二

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真読 船形山沙門昶深勤之

卷第四八八

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真読 三州船形山法印昶深勤行之

卷第四八三

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真読 三州船形山法印昶深勤行之

卷第四八九

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真読 三州船形山昶深行之

卷第四九〇

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真説 三州船形山法印昶深勤之

卷第四九一

(奥書) ナシ

卷第四九二(後欠)

卷第四九三

(奥書) ナシ

卷第四九四

(奥書) ナシ

卷第四九五

(奥書) ナシ

卷第四九六

(奥書) ナシ

卷第四九七

(奥書) ナシ

卷第四九八

(奥書) ナシ

卷第四九九(後欠)

卷第五〇〇

(奥書)

「右此十卷正徳年中被盜候而  
享保二酉年八月中旬法印日言求之」

卷第五〇一

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也  
施主当村夏目七兵衛」

貞享二乙 丑年十月上旬令真説 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五〇二

(奥書)

「奉寄進為災難消除  
施主当所夏目七兵衛」

貞享二乙 丑年十月吉日令真説 船形山法印昶深勤行之

卷第五〇三

(奥書)

〔奉奇進（イ）為子孫繁昌息災如意

施主当村夏日七兵衛〕

貞享二乙 丑年十月中旬令真誥 三州船形山法印昶深欽校誥之

卷第五〇四

〔奧書〕

〔奉奇進為二世安樂也

施主当村夏日七兵衛〕

貞享二乙 丑年十月中旬日令真誥 三州船形山住持法印昶深修行之

卷第五〇五

〔奧書〕

〔奉奇進為二世安樂也

施主当村夏日七兵衛〕

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五〇六

〔内題裏書〕

〔奉奇進為二世安樂也

施主当所夏日七兵衛〕

貞享二乙 丑年十月如意宝日奉校誥 三州船形山法師昶深勤行之

〔奧書〕

卷第五〇七

〔奧書〕

〔奉奇進為二世安樂也

施主当村夏日七兵衛〕

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山沙門昶深誦之

卷第五〇八

〔奧書〕

〔奉奇進為二世安樂也

施主当村夏日七兵衛〕

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山法印昶深信誦之畢

卷第五〇九

〔第一紙裏〕

〔奉奇進為二世安樂也

施主当村夏日七兵衛〕

〔奧書〕

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五一〇

〔卷首識語〕

〔奉奇進為二世安樂也

施主当村夏日七兵衛〕

〔奧書〕

皆貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山住持昶深勤行之

卷第五一一

(奥書)

「奉寄進為二世安樂 施主当村夏日七兵衛」

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山法印昶深修行之

卷第五一二

(奥書)

「奉寄進為子孫繁昌息災如意」

施主当村夏日七兵衛

貞享二乙 丑年十月中旬令真誥 三州船形山住持昶深修行之

卷第五一三

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也」

施主当村夏日七兵衛

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山昶深欽勤行之

卷第五一四

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也」

施主当所夏日七兵衛

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五一五

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也」

施主当村夏日七兵衛

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山昶深勤之

卷第五一六

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也」

施主当村夏日七兵衛

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山昶深勤之

卷第五一七

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也」

施主当村夏日七兵衛

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五一八

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也」

施主当村夏日七兵衛

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山法印昶深修行之

卷第五一九

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也

施主当村七兵衛」

貞享二乙 丑年十月中旬令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第五二〇

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也

施主当村夏日七兵衛」

貞享二乙 丑歲十月吉祥日令真誥 參州松形山法印昶深勤行之

卷第五二一

(奥書)

貞享二乙 丑年マツ神名月吉祥日令拜誥 三州松形山住持沙門昶深勤行之

卷第五二二

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第五二三

(奥書)

貞享二乙 丑歲十月吉日令真誥 三州松形山法師昶深勤行之

卷第五二四

(奥書)

貞享二乙 丑歲十月吉日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第五二五

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州松形山法師昶深勤行之

卷第五二六

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉祥日令真誥 三州松形山沙門昶深勤行之

卷第五二七

(奥書)

貞享二天初冬吉辰日令真誥 三州松形山法印昶深勤行之

卷第五二八

(奥書)

貞享二年十月吉祥日令真誥 三州渥美郡松形山法師昶深勤之

卷第五二九

(奥書)

貞享二歲十月吉辰令真誥 三州松形山法師昶深勤行之

卷第五三〇

(奥書)

貞享二歲十月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤之

卷第五三一

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤之

卷第五三二

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五三三

(奥書)

貞享二天十月吉辰令真誥 三州船形山沙門昶深勤行之

卷第五三四

(奥書)

貞享二歲十月吉祥日令真誥 三州船形山法師昶深修行之

卷第五三五

(奥書)

皆貞享二天初冬吉辰 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五三六

(奥書)

皆貞享二天十月吉辰 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五三七

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉祥日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五三八

(奥書)

貞享二天十月吉辰日令真誥 三州船形山法印昶深勤之

卷第五三九

(奥書) ナシ

卷第五四〇

(奥書)

貞享二歲初冬吉辰令真誥 參州船形山法印昶深勤行之

卷第五四一

(奥書) ナシ

卷第五四二

(奥書)

貞享二天令真誦 船形山昶深勤

卷第五四三

(奥書)

貞享二乙 丑年十月下旬令真誦 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五四四

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真誦 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五四五

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真誦 船形山法印昶深修行之

卷第五四六

(奥書)

貞享二天朔冬吉辰令誦誦 船形山法印昶深勤之

卷第五四七 (前欠)

(奥書)

貞享二天冬吉辰令真誦 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五四八

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真誦 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五四九

(奥書)

貞享二天十月吉日令真誦 三州船形山法印昶深勤之

卷第五五〇

(奥書)

皆貞享二丑歲十月吉日令真誦 三州渥美郡雲之谷村

船形山法印昶深勤行之

卷第五五一

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真誦 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五五二

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉辰令真誦 三州船形山法師昶深勤行之

卷第五五三

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日令真誦 三州船形山法印昶深勤行之



卷第五五四

(奥書)

貞享二乙 丑年十月下旬令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五五五

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤之

卷第五五六

(奥書)

貞享二乙 丑年十月吉日奉真誥 三州船形山法印昶深勤之

卷第五五七

(奥書)

貞享二乙 丑年霜月吉日令真誥 三州船形山法師昶深勤行之

卷第五五八

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五五九 (中欠)

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五六〇

(奥書)

貞享二乙 丑年霜月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五六一

(奥書)

貞享二乙 丑年霜月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤

卷第五六二

(奥書)

真誥 昶深勤行之

卷第五六三

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五六四

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五六五

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州船形山法印昶深修行之

卷第五六六

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五六七

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 船形山法印昶深勤之

卷第五六八

(奥書)

「奉寄進為二世安樂也施主三州吉田本町

長左衛門 三四郎 甚四郎 九兵衛

金兵衛 次兵衛 玄団 甚八郎

善兵衛 助十郎 彦左衛門

貞享二乙 丑仲夏上旬日令真誥畢 三州船形山法印昶深修行之

卷第五六九

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州船形山沙門昶深修行之

卷第五七〇

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五七一

(奥書)

貞享二乙 丑年霜月十六日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五七二

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州船形山昶深勤行之

卷第五七三

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月二十日令真誥 船形山法印昶深勤之

卷第五七四

(奥書)

令真誥昶深勤行之

卷第五七五

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五七六

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五七七

(奥書)

貞享二乙 丑年霜月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五七九

(奥書)

貞享二乙 丑年十二月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五八〇

(奥書)

貞享二乙 丑年霜月吉祥日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五八一

(奥書)

貞享二乙 丑年十二月廿五日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五八二

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 法印昶深

卷第五八三

(奥書)

皆貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五八四

(奥書)

貞享二乙 丑年霜月吉日令真誥 法印昶深勤行之

卷第五八六

(奥書)

貞享二天令真誥 法印昶深勤

卷第五八七

(奥書)

令真誥昶深勤之

卷第五八八(前後欠)

卷第五八九

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五九〇

(奥書)

貞享二乙 丑年霜月廿七日令真誥 三州船形山法印昶深勤行之

卷第五九一

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月廿七日令真誥 三州 船形山法印昶深勤行之

卷第五九二

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州 船形山法印昶深勤之

卷第五九三

(奥書) ナシ

卷第五九四

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州 船形山法印昶深勤之

卷第五九五

(奥書)

貞享二乙 丑年霜月吉日令真誥 船形山法印昶深

卷第五九六

(奥書)

貞享二乙 丑年十一月吉日令真誥 三州 船形山法印昶深勤行之

卷第五九七

(奥書)

貞享二乙 丑年霜月吉祥日令真誥 三州 船形山法印昶深勤行之

卷第五九八

貞享二乙 丑年極月吉日令真誥 三州 船形山法印昶深勤行之

卷第五九九

(奥書)

令真誥法印昶深勤之

卷次不明 (完存)

(奥書)

貞享二年乙 丑六月中旬日令真誥 三州 船形山法印昶深勤行之

卷次不明 (卷第三七三カ) (完存)

(奥書)

貞享二乙 丑六月下旬令校誦 船形山昶深

卷次不明 (完存)

(奥書)

貞享二乙 丑年六月吉祥日令真誥 三州 船形山法印昶深勤行之

卷次不明 (卷末断簡)

(奥書)

「為萃月妙春 松山宗貞

心覺道泉 浄屋妙清

□ 円

□ 入

西月浄雲 妙春 秋屋浄喜 六親 六親 六親

玉城妙雲 妙三 六親

三州船形山普門寺

令真誥已 願主法印昶深

「奉寄進」

貞享元甲子年卯月吉祥日

卷次不明（卷末斷簡）

（奥書）

峯貞享二乙 丑 仲夏日令誥誦畢 三州船形山法印昶深

卷次不明（卷末斷簡）

（奥書）

貞享二乙 丑 年十月吉日令真誥 三州船形山法印昶深修行之

卷次不明（卷末斷簡）

（奥書）

貞享二乙 丑 年十一月吉日令真誥

卷次不明（卷末斷簡）

（奥書）

貞享二天令真誥